

2003 年度 工学部デザイン工学科 A コース (デザイン) シラバス

syll mksyltex Ver 1.97 (2004-3-16) by higaki@tu.chiba-u.ac.jp

2003 年度 工学部デザイン工学科 A コース (デザイン) 授業科目一覧表

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
TF001001	図学演習	2.0	1 年前期金曜 2 限	釜池 光夫 ^他	意匠 3
TF002001	デザイン工学セミナー (意匠系)	2.0	2 年前期月曜 2 限	デ工 (意匠系) 各教官	意匠 3
TF002002	デザイン工学セミナー (意匠系)	2.0	1 年後期水曜 1 限	デ工 (意匠系) 各教官	意匠 4
TF003001	デザインと人間	2.0	1 年前期木曜 5 限	デ工 (意匠系) 各教官	意匠 5
TF004001	基礎造形演習	3.0	1 年前期火曜 3 限 1 年前期火曜 4 限前半	瀧 徹 ^他	意匠 6
TF005101	製品デザイン表示論演習 I	3.0	1 年前期月曜 4 限後半 1 年前期月曜 5 限	杉山 和雄 ^他	意匠 6
TF005202	製品デザイン表示論演習 II	3.0	1 年後期月曜 4 限後半 1 年後期月曜 5 限	杉山 和雄 ^他	意匠 7
TF006001	デザインの歴史	2.0	1 年後期火曜 4 限	宮崎 清	意匠 7
TF007001	基礎人間工学	2.0	1 年後期火曜 5 限	勝浦 哲夫 ^他	意匠 8
TF008001	材料計画論	2.0	1 年後期水曜 3 限	青木 弘行	意匠 8
TF010101	デザイン製図	2.0	1 年後期月曜 2 限	杉山 和雄 ^他	意匠 9
TF011001	製品デザイン論 I	2.0	1 年後期水曜 5 限	釜池 光夫	意匠 9
TF012001	視覚デザイン基礎演習	3.0	1 年後期金曜 4 限後半 1 年後期金曜 5 限	宮崎 紀郎 ^他	意匠 10
TF015001	メディアデザイン論	2.0	2 年前期水曜 2 限	宮崎 紀郎	意匠 11
TF016001	C G 理論	2.0	2 年前期水曜 3 限	玉垣 庸一	意匠 12
TF017001	環境デザイン論	2.0	2 年前期木曜 2 限	清水 忠男	意匠 13
TF021001	環境デザイン製図演習	3.0	2 年前期火曜 4 限後半 2 年前期火曜 5 限	原 寛道 ^他	意匠 14
TF019001	色彩科学	2.0	2 年前期金曜 4 限	日比野 治雄	意匠 15
TF018001	環境デザイン表示論演習	3.0	2 年後期金曜 1 限後半 2 年後期金曜 2 限	佐藤 公信 ^他	意匠 16
TF023001	造形力学論	2.0	2 年前期金曜 5 限	久保 光徳	意匠 17
TF025101	基礎製品デザイン演習 I	2.0	2 年前期水曜 4 限後半 2 年前期水曜 5 限	渡邊 誠 ^他	意匠 18
TF025201	基礎製品デザイン演習 II	2.0	2 年前期月曜 5 限 2 年前期水曜 4 限前半	釜池 光夫 ^他	意匠 19
TF027001	視覚デザイン演習	3.0	2 年前期木曜 4 限後半 2 年前期木曜 5 限	小原 康裕 ^他	意匠 19
TF028001	デザイン文化計画演習 I	3.0	2 年後期木曜 1 限後半 2 年後期木曜 2 限	宮崎 清 ^他	意匠 20
TF029001	材料計画演習 I	3.0	2 年後期水曜 1 限後半 2 年後期水曜 2 限	久保 光徳 ^他	意匠 21
TF030001	材料開発計画	2.0	2 年後期月曜 4 限	(菊地 紀洋)	意匠 22
TF031001	基礎デザイン論 II	2.0	2 年後期火曜 1 限	堀田 明博	意匠 22
TF043401	造形デザイン演習・立体	3.0	2 年後期月曜 2 限後半 2 年後期月曜 3 限	瀧 徹 ^他	意匠 23
TF032001	デザインシステム計画 I	2.0	2 年後期火曜 2 限	杉山 和雄 ^他	意匠 23
TF033101	製品デザイン演習 I	3.0	2 年後期火曜 4 限 2 年後期火曜 5 限前半	釜池 光夫 ^他	意匠 24
TF034001	製品人間工学	2.0	2 年後期月曜 5 限	勝浦 哲夫 ^他	意匠 24
TF035001	デザイン文化計画演習 II	3.0	3 年前期木曜 1 限後半 3 年前期木曜 2 限	宮崎 清	意匠 25
TF036001	人間工学演習 I	5.0	3 年前期月曜 3 限後半 3 年前期月曜 4.5 限	勝浦 哲夫 ^他	意匠 26
TF037001	材料計画演習 II	3.0	3 年前期月曜 1 限後半 3 年前期月曜 2 限	青木 弘行 ^他	意匠 26
TF039001	デザインシステム計画演習 I	3.0	3 年前期水曜 4 限後半 3 年前期水曜 5 限	杉山 和雄 ^他	意匠 27
TF040001	製品デザイン演習 II	3.0	2 年後期木曜 4 限後半 2 年後期木曜 5 限	釜池 光夫 ^他	意匠 28
TF041001	環境デザイン演習 I	3.0	3 年前期金曜 4 限後半 3 年前期金曜 5 限	清水 忠男	意匠 29

2003年度 工学部デザイン工学科Aコース(デザイン)シラバス

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
TF042101	デザイン心理学演習 I	3.0	3 年前期火曜 3 限 3 年前期火曜 4 限前半	日比野 治雄	意匠 30
TF043101	造形デザイン演習・平面	3.0	3 年前期木曜 4 限 3 年前期木曜 5 限前半	堀田 明博 ^他	意匠 31
TF038101	生活デザイン造形演習	3.0	3 年前期水曜 1 限 3 年前期水曜 2 限前半	堀田 明博 ^他	意匠 32
TF044001	環境デザイン演習 II	3.0	3 年後期金曜 4 限後半 3 年後期金曜 5 限	清水 忠男	意匠 33
TF045001	生理人類学	2.0	3 年後期火曜 2 限	勝浦 哲夫 ^他	意匠 34
TF046001	材料計画演習 III	3.0	3 年後期木曜 4 限後半 3 年後期木曜 5 限	青木 弘行 ^他	意匠 35
TF047001	デザインシステム計画 II	2.0	3 年後期火曜 1 限	杉山 和雄 ^他	意匠 35
TF048001	デザインシステム計画演習 II	3.0	3 年後期金曜 3,4,5 限	渡邊 誠 ^他	意匠 36
TF049101	デザイン心理学演習 II	3.0	3 年後期火曜 3 限 3 年後期火曜 4 限前半	日比野 治雄	意匠 37
TF050101	展示デザイン演習	3.0	3 年後期水曜 1 限後半 3 年後期水曜 2 限	佐藤 公信 ^他	意匠 37
TF060501	人間工学演習 II	3.0	4 年前期火曜 1 限後半 4 年前期火曜 2 限	勝浦 哲夫 ^他	意匠 38
TF060101	音響デザイン演習	3.0	4 年前期水曜 3 限 4 年前期水曜 4 限前半	佐藤 公信	意匠 38
TF053001	学外実習	2.0	3,4 年通期集中	デ工(意匠系)各教官	意匠 39
TF055001	メディアデザイン演習 I	3.0	2 年後期水曜 3 限 2 年後期水曜 4 限前半	宮崎 紀郎 ^他	意匠 39
TF056001	C G 演習	3.0	2 年後期水曜 4 限後半 2 年後期水曜 5 限	玉垣 庸一	意匠 40
TF057001	デジタルデザイン論	2.0	3 年前期金曜 5 限	(大平 智弘)	意匠 40
TF058001	メディアデザイン演習 II	3.0	3 年前期火曜 1 限後半 3 年前期火曜 2 限	宮崎 紀郎 ^他	意匠 41
TF059001	メディアデザイン演習 III	3.0	3 年後期木曜 3,4,5 限	(児山 啓一) ^他	意匠 42
TG093201	機械工作実習 B	1.0	4 年前期金曜 4 限 4 年前期金曜 5 限前半	渡部 武弘	意匠 43
TF062001	卒業研究(意匠・3年)	6.0	3 年後期月曜 4,5 限	デ工(意匠系)各教官	意匠 43
TF061001	デザイン工学総合プロジェクト	6.0	3 年後期月曜 4,5 限	デ工(意匠系)各教官	意匠 44
TF062101	卒業研究(意匠・4年)	6.0	4 年前期月曜 2,3,4 限 4 年後期月曜 3,4,5 限	デ工(意匠系)各教官	意匠 44
TF061004	デザイン工学総合プロジェクト	6.0	4 年前期月曜 2,3,4 限 4 年後期月曜 3,4,5 限	デ工(意匠系)各教官	意匠 45

授業科目名 : 図学演習
 科目英訳名 : Descriptive Geometry (Lec & Lab)
 担当教官 : 釜池 光夫, 長尾 徹, 田内 隆利
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T049

開講時限等: 1 年前期金曜 2 限

講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF1:デザイン A デザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF4:デザイン A 建築	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 空間を把握し、操作、表示する能力を涵養し、デザインの思考展開および伝達手段として必要な三次元空間表示のための、基礎的図法の理論の学習と演習を行う。授業は二部構成とし、第一部は平行投影図法、第二部は中心投影図法からなる。

[講義内容] 第 1 回 用具説明, クラス分け, インTRODクッション 第 2 回 投影法, 直線, 直線と平面の関係 / 写生および透視図法概論 第 3 回 平面と平面の関係 / 2 点透視図法 第 4 回 切断 / 1 点透視図法および 1 点透視図法に似た 2 点透視図法 第 5 回 相関体 / 3 点透視図法 第 6 回 展開 / 円の透視図法 第 7 回 軸測投影 / 同上 第 8 回 試験 / 同上 第 9 回 クラス入れ換え / 写生および透視図法概論 / 投影法, 直線, 直線と平面の関係 第 10 回 2 点透視図法 / 平面と平面の関係 第 11 回 1 点透視図法および 1 点透視図法に似た 2 点透視図法 / 切断 第 12 回 3 点透視図法 / 相関体 第 13 回 円の透視図法 / 展開 第 15 回 同上 / 試験

[キーワード]

授業科目名 : デザイン工学セミナー (意匠系)
 科目英訳名 : Seminar: Introduction to Design
 担当教官 : デ工 (意匠系) 各教官
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T04A

開講時限等: 2 年前期月曜 2 限

講義室 : 各研究室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)		
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF4:デザイン A 建築	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)

[授業の方法] 実習、演習など

[講義概要] デザイン工学科意匠系の各教育研究分野の教育研究内容についてセミナー形式の授業によって触れることにより、デザイン科学・デザイン計画の領域の基本的理解を求めるとともに、学生と教官のコミュニケーションの基盤の形成を促す。

[講義目的] デザイン工学科意匠系における勉学の方式や態度、問題意識や関心の持ち方など、受講生と教官が一体となって思考し、今後の学生生活に展望を開くこと。

[講義内容] 10 名程度のグループを編成し、それぞれのグループ単位で 1 教育研究分野につき 3 週間、合計 4 つの教育研究分野でのセミナー形式の授業を受講する。各教育研究分野でのセミナーを終了した後、全体での討論を行う。各教育研究分野での 3 週間のセミナーは、それぞれの分野の教育研究の特色に応じて計画されるが、概ね以下の内容である。各教育研究分野でのセミナー 第 1 週: 教育研究分野の教育および研究の内容紹介 第 2 週: 教育研究分野の特色に応じた演習 第 3 週: 演習の内容を踏まえた討論

[キーワード]

[備考] 第一回目の授業にて受講の意志を確認し、受講生を決定する。第二回目以降の授業時間帯については、担当教官と受講生で相談の上、その都度決定する。受け入れ人数: 185 人以下 (1 年次に限る) 課題、レポートおよびクラスにおける討論により成績評価を行う。

授業科目名 : デザイン工学セミナー (意匠系)
 科目英訳名 : Seminar: Introduction to Design
 担当教官 : デ工 (意匠系) 各教官
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T04B

開講時限等: 1 年後期水曜 1 限
 講義室 : 工 2 号棟 102 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)		
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF4:デザイン A 建築	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)

[授業の方法] 実習、演習など

[講義概要] デザイン工学科意匠系の各教育研究分野の教育研究内容についてセミナー形式の授業によって触れることにより、デザイン科学・デザイン計画の領域の基本的理解を求めるとともに、学生と教官のコミュニケーションの基盤の形成を促す。

[講義目的] デザイン工学科意匠系における勉学の方式や態度、問題意識や関心の持ち方など、受講生と教官が一体となって思考し、今後の学生生活に展望を開くこと。

[講義内容] 10 名程度のグループを編成し、それぞれのグループ単位で 1 教育研究分野につき 3 週間、合計 4 つの教育研究分野でのセミナー形式の授業を受講する。各教育研究分野でのセミナーを終了した後、全体での討論を行う。各教育研究分野での 3 週間のセミナーは、それぞれの分野の教育研究の特色に応じて計画されるが、概ね以下の内容である。各教育研究分野でのセミナー 第 1 週：教育研究分野の教育および研究の内容紹介
第 2 週：教育研究分野の特色に応じた演習 第 3 週：演習の内容を踏まえた討論

[キーワード]

[備考] 第一回目の授業にて受講の意志を確認し、受講生を決定する。第二回目以降の授業時間帯については、担当教官と受講生で相談の上、その都度決定する。受け入れ人数：185 人以下（1 年次に限る） 課題、レポートおよびクラスにおける討論により成績評価を行う。

授業科目名 : デザインと人間 (学部・放送大学開放科目)
 科目英訳名 : Design and humanity (Lec)
 担当教官 : デ工 (意匠系) 各教官
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T04C
 開講時限等: 1 年前期木曜 5 限
 講義室 : 工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TE:都市環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	T2:建築 A	専門選択必修 (F20)
TF1:デザイン A デザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)				
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)		
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)		
TF4:デザイン A 建築	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	個別科目 (C14)					
TH:情報画像 A	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)						
TH1:情報画像 A 情報工学	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)						
TH3:情報画像 A 画像材料工学	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)						
TH4:情報画像 A 画像システム工学	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)						
TJ1:都市環境 環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		
TJ2:都市環境 メディア メディア	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		

[授業の方法] 講義

[講義概要] デザイン工学科意匠系の各教育研究分野の教官が、それぞれの専門の立場から講義を行う。

[講義目的] デザインに係わるさまざまな領域の理念、歴史、方法論などについて基本的な理解を求めるとともに、それらの知識の統合により、人間社会におけるデザインの役割、進むべき方向性などを考察する。

[講義内容] 第 1 週: オリエンテーション 第 2 週: デザインの歴史と展望 第 3 週: デザイン工学科意匠系の歴史 第 4 週: 課題「デザインとは何か(1)」 第 5 週: 人間の機能から見たデザイン 第 6 週: 材料計画から見たデザイン 第 7 週: システムとしてのデザイン企画・計画の方法 第 8 週: 工業製品デザインの事例 第 9 週: デザインと生活文化 第 10 週: ビジュアルコミュニケーションの領域とその役割 第 11 週: 環境とデザインの関わり 第 12 週: デザインの基礎と造形 第 13 週: 色彩と形の心理学 第 14 週: 課題「デザインとは何か(2)」 第 15 週: 総合討論

[キーワード]

授業科目名 : 基礎造形演習
 科目英訳名 : Basic Design Training
 担当教官 : 瀧 徹, 田内 隆利, (清原 明生)
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T04D, T04E
 開講時限等: 1 年前期火曜 3 限 / 1 年前期火曜 4 限前半
 講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF1:デザイン A デザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] 演習

[講義概要] 多様化する社会において造形のもつ意味、変化、価値観などに対して、個々の関わり方、表現方法を、実践を通じて養う。造形表現の基礎は事物を観察し、それを客観的に表現することにあり、基本的な描写力とデッサン力をマスターするために多様な表現素材を使って、立体、平面にわたって制作する。

[講義目的] デザイン作業の基本的能力となる造形力を身につけることを目的とする。自然物、人工物を対象にその形態や色彩、テクスチャ、動き等を正確に観察、描写し、また、与えられた条件の中で立体を構成する訓練を行なう。

[講義内容] 第 1 回 演習の目的の説明・草花をコンテ、鉛筆淡彩で描く 第 2 回 継続、完成 第 3 回 材質の異なる複数の対象をコンテ、鉛筆淡彩で描く 第 4 回 継続、完成 第 5 回 動く生物をコンテ、鉛筆淡彩で描く 第 6 回 継続、完成 第 7 回 継続、完成 第 8 回 立体造形のためのテーマ、説明、道具についての説明 第 9 回 材木に直接デッサンし、構想を描きながら荒彫りを始める 第 10 回 全体の形を認識 第 11 回 素材の特性、大きさ・量と形や位置との関係を検討 第 12 回 イメージの方向性、表現方法、形の整理 第 13 回 全体と細部のバランスを考慮して彫る 第 14 回 完成 第 15 回 講評、採点

[キーワード]

授業科目名 : 製品デザイン表示論演習 I
 科目英訳名 : Product Design Presentation Methods I (Lec & Lab)
 担当教官 : 杉山 和雄, 渡邊 誠, (漆間 真一)
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T04F, T050
 開講時限等: 1 年前期月曜 4 限後半 / 1 年前期月曜 5 限
 講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF1:デザイン A デザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)		
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] 講義及び演習

[講義概要] 製品デザインにおける必要な表示方法を習得する。基本形状の把握と表示方法からスタートし、ハイライトやリフレクションによる表現技法を習得する。直線を主体とした工業製品、主に家電製品のデザインを対象として、スケッチおよびレンダリングを描く。

[講義目的] 製品デザインにおける表示は、いわゆる一般的な絵の表現方法とは異なったものである。本演習は、この製品デザイン表示の手法を新たに習得するものである。

[講義内容] 第 1 回 導入・基礎技法取得 オリエンテーション 第 2 回 基礎 1: 基礎図形の描画と質感表現 その 1 第 3 回 基礎図形の描画と質感表現 その 2 第 4 回 基礎 2: カラーペンシルによる立体図形の作画 その 1 第 5 回 同 その 2 第 6 回 同 その 3 第 7 回 基礎 3: マーカーによる立体図形の作画 その 1 第 8 回 同 その 2 第 9 回 同 その 3 第 10 回 応用 1: 家電製品のレンダリング マーカーによる基礎立体的描画と質感表現 マーカーによる家電製品のスケッチ その 1 第 11 回 同 その 2 第 12 回 同 その 3 第 13 回 マーカーによる家電製品のレンダリング その 1 第 14 回 同 その 2 第 15 回 同 その 3

[キーワード] 工業デザイン, 表示, 表現,

[受講対象] デザイン工学科意匠系必修

[教科書・参考書] 別途指示

授業科目名 : 製品デザイン表示論演習 II
 科目英訳名 : Product Design Presentation Methods II (Lec & Lab)
 担当教官 : 杉山 和雄, 渡邊 誠, 青木 護
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T051, T052
 開講時限等: 1年後期月曜 4 限後半 / 1年後期月曜 5 限
 講義室 : 工 2-アトリエ(2-601), 工 2-第一製図室,
 工 2-アトリエ(2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003年	2002年	2001年	2000年	1999年
TF1:デザイン A デザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)		
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] 講義及び演習

[講義概要] 製品単体の表示だけでなく、製品を使用する人間や製品が使用される状況を含めた表現技法について演習により習得する。本演習では、自動車および家電製品の両方を対象とし、そのスケッチおよびレンダリングについて習得する。

[講義目的] 製品デザインにおける表示は、いわゆる一般的な絵の表現方法とは異なったものである。本演習は、この製品デザイン表示の手法を新たに習得するものである。

[講義内容] 第1回 オリエンテーション第2回 レビュープラクティス1 第1回 レビュープラクティス2 第4回 応用2:自動車のレンダリング カラーペンシル・パステル・マーカーによる自動車描画の基礎 カラーペンシル・パステルによるスケッチ その1 第5回 同 その2 第6回 同 その3 第7回 自動車のレンダリング その1 第8回 同 その2 第9回 同 その3 第10回 応用3:人間・状況を入れたスケッチ・レンダリング 情報機器のスケッチ その1 第11回 同 その2 第12回 同 その3 第13回 パーソナル機器のレンダリング その1 第14回 同 その2 第15回 同 その3

[キーワード] 工業デザイン, 表示, 表現

[受講対象] デザイン工学科意匠系必修

[教科書・参考書] 別途指示

授業科目名 : デザインの歴史
 科目英訳名 : History of Design (Lec)
 担当教官 : 宮崎 清
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T053
 開講時限等: 1年後期火曜 4 限
 講義室 : 工 2号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度
	2003年	2002年	2001年	2000年	1999年	1998年		
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門選択必修 (F20)		T4:情報 A	1996年 専門選択 (F30)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TF4:デザイン A 建築	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)						

[授業の方法] 講義

[講義概要] 近代デザインの歴史的展開過程を、要因 理念 実践の関連のなかでとらえ、デザインが人びとの生活文化の形成に果たしてきた役割とその意味を検討する。欧米のみならず、日本におけるデザイン概念の形成と発展に関する事象を取り上げ、解説する。

[講義目的] 「歴史学」とは「未来学」である。「これから」のデザイン文化を創造するためには、今日まで先人たちが辿ってきた道筋を知ることがきわめて重要である。本授業は、ビジュアル資料をふんだんに活用しながら、世界と日本を対比させつつ、近代デザイン史の概要を明らかにする。多様な視点から、これからの「ものづくり」の「あるべき姿」を考察する能力を涵養することが目的である。

[講義内容] (1) 授業ガイダンス、(2) 歴史を学ぶということ、(3) Arts and Crafts Movement、(4) Art Nouveau など、(5) ベーレンスと AEG・D.W.B. (6) Bauhaus I、(7) Bauhaus II、(8) 第2次世界大戦後のデザイン、(9) 日本のデザイン運動・明治期、(10) 日本のデザイン運動・大正期、(11) 日本のデザイン運動・昭和～戦前、(12) 日本のデザイン運動・民芸と伝産、(13) 日本のデザイン運動・前田正名、(14) 戦後のデザイン、(15) 試験

[キーワード] デザイン、歴史、生活、文化、ものづくり

[教科書・参考書] 授業のなかで紹介する

授業科目名 : 基礎人間工学
 科目英訳名 : Basic Ergonomics (Lec)
 担当教官 : 勝浦 哲夫, 岩永 光一, 寺内 文雄
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T054

開講時限等: 1 年後期火曜 5 限
 講義室 : 工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)				

[授業の方法] 講義

[講義概要] 真に健康で快適な生活環境をデザインするためには人間の生物科学的特性の理解が必要である。人間-環境-機械系における人間の生理的・心理的機能と構造を概説し、使いやすい機器・快適な環境をデザインするための人間工学の基礎を学習する。

[講義目的] デザインにおける人間工学の考え方と役割に関する理解を求める。また、人間工学の研究対象となる人間の諸特性とその計測法に関する知識の獲得を目指す。

[講義内容] 第1回 序論:人間工学とはなにか 第2回 人間工学とデザイン 第3回 人間の感覚特性
 第4回 視覚と光(1) 第5回 視覚と光(2) 第6回 聴覚と音 第7回 快適性評価 第8回 人体の構造と機能(1)筋骨格系 第9回 筋電図 第10回 生体計測 第11回 人体の構造と機能(2)呼吸循環系 第12回 人体の構造と機能(3)神経系 第13回 脳波と心拍変動性 第14回 人体の構造と機能(5)感覚系 第15回 期末テスト

[キーワード]

[教科書・参考書] 「環境人間工学」佐藤方彦・勝浦哲夫著、朝倉書店

[備考] 受け入れ人数: 100名以内 成績評価法: テスト他

授業科目名 : 材料計画論 [学部・放送大学開放科目]
 科目英訳名 : Materials Planning (Lec)
 担当教官 : 青木 弘行
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T055

開講時限等: 1 年後期水曜 3 限
 講義室 : 工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境					専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築		専門選択 (F30)				

[授業の方法] 講義

[講義概要] デザインを展開するに当たって必要となる材料関連問題を、材料計画の観点から概説する。また、事例紹介を通して、現代における材料開発や材料関連技術の動向について解説する。

[講義目的] デザインにおける材料関連問題に対して、適切に対処でき得る能力を養う。

[講義内容] 材料計画 (Materials Planning) の考え方、デザインと材料特性 - 経済的特性・環境的特性・感性・感覚的特性・製造的特性・物理的特性・化学的特性等 - の関係について解説すると同時に、デザインにおいて必要となる各種材料について事例をまじえて概説する。また、材料開発、材料関連技術の動向と方向性についても言及する。

[キーワード] 材料計画、デザイン、インタフェース

[教科書・参考書] 授業時に指示する。

[備考] 成績評価法: テスト、レポート他

授業科目名 : デザイン製図
 科目英訳名 : Drawing Methods for Design (Lab)
 担当教官 : 杉山 和雄, 渡邊 誠, (内田 洋彰)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T058

開講時限等: 1 年後期月曜 2 限
 講義室 : 工 2 号棟 201 教室, 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 講義および演習

[講義概要] 前半では JIS B0001 の習得を通じて、デザインに必要な製図の知識を習得する。後半は形の成り立ちの理解および曲面設計の習得を行う。

[講義目的] 前半では JIS B0001 の習得を通じて、デザインに必要な製図の知識の習得を目的としている。後半は複雑な形状をその変形プロセスを逆行する事で理解し、形の成り立ちの理解および曲面設計の方法を習得する。

[講義内容] 第 1 回概論：デザイン製図および図学ならびに関連する製図法，第 2 回 JIS B0001 の解説 1，第 3 回 JIS B0001 の解説 2，第 4 回演習，第 5 回演習，第 6 回演習，第 7 回演習，第 8 回副投影面を用いる表示，第 9 回演習，第 10 回演習，第 11 回形のなりたちについて，第 12 回曲面設計法解説 1，第 13 回曲面設計法解説 2，第 14 回演習，第 15 回演習

[キーワード] デザイン製図，JIS B0001，曲面設計

[教科書・参考書] 別途指示

授業科目名 : 製品デザイン論 I
 科目英訳名 : Some Aspects of Product Design I (Lec)
 担当教官 : 釜池 光夫
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T059

開講時限等: 1 年後期水曜 5 限
 講義室 : 工 2 号棟 102 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TJ:都市環境 B	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		
TJ1:都市環境	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		
TJ2:都市環境 メディア	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 製品デザインの基礎的な知識を，具体的な事例を通してその全体像を把握し、製品デザイン技術に資することを目的とする。あわせて幾つかの課題を課して学習を補強する。

[講義内容] 第 1 回 オリエンテーション (授業の進め方と課題の発表) 現代工業デザイン誕生の背景 第 2 回 現代工業デザインの発展の系譜 第 3 回 同上 (その 2) 第 4 回 工業デザインの職能分化の変遷と確立 第 5 回 社会的機能としての職能 第 6 回 製品の 3 側面 第 7 回 ひと - 機械の系 第 8 回 同上 (その 2) 第 9 回 機器の構造と造形 第 10 回 同上 (その 2) 第 11 回 デザイン技術と造形 第 12 回 ハードウェアとソフトウェア分析と可能性の展開と限界 第 13 回 形と素材と生産 第 14 回 同上 (その 2) 第 15 回 デザインの思考と方法

[キーワード]

授業科目名 : 視覚デザイン基礎演習
 科目英訳名 : Visual Communications Design Fundamentals (Lec & Lab)
 担当教官 : 宮崎 紀郎, 玉垣 庸一, 小原 康裕
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T05A, T05B

開講時限等: 1 年後期金曜 4 限後半 / 1 年後期金曜 5 限
 講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)				

[授業の方法] 演習および講義

[講義概要] 視覚デザインの基礎的なことからの概説と基本要素についての演習を行なう。スミによる作図、作画および彩色による作図、作画の基礎を学び、それぞれの課題制作を行なう。

[講義目的] 課題制作を通じ、視覚デザインに関わる基礎的な技能を養う。

[講義内容] 第 1 回 オリエンテーション: この授業の目的、内容。 第 2 回 課題 1 「H」のかたちを描く。
 第 3 回 課題 1 の講評。課題 2 「箱をつくろう」の説明 課題 3 「レタリング」の説明 30 文字以上の「完成された書体」を彩色して書く。B 3 ケント紙使用。課題 4 「似顔絵」の説明。先生 1 名、もう一人(誰でも) A 4 サイズに一人ずつ描いて B 3 台紙に貼り込む。人物名を台紙または画面内にレタリングする。課題 5 「模写」の説明。ポスターなど印刷された広告物を本物そっくりに描く。A 4 サイズ以上で文字が入っているものを選ぶこと。台紙に、本物と模写を並べて貼る。B 3 以上はそのまま提出。 第 4 回 課題 2 「箱」の試作。即日設計。 第 5 回 課題 2 「箱」の中間講評。色の塗り方デモンストレーション。 第 6 回 課題 2 「箱」本制作。即日設計。 第 7 回 課題 2 の講評。配色に関する講義。 第 8 回 課題 3 「レタリング」の説明。レタリングの講義。レタリングの練習 1。 第 9 回 レイアウトの極意を伝授。レタリングの練習 2。模写の候補を持参して情報開示、交換。 第 10 回 課題 3 「レタリング」の即日設計。 第 11 回 課題 3 講評。課題 4 「似顔絵」のスケッチ。 第 12 回 課題 4 「似顔絵」の即日設計。 第 13 回 課題 4 「似顔絵」の講評。 第 14 回 課題 5 「模写」の講評。 第 15 回 試験

[キーワード]

授業科目名 : メディアデザイン論
 科目英訳名 : Theory of Communications Media Design (Lec)
 担当教官 : 宮崎 紀郎
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T05C
 開講時限等: 2 年前期水曜 2 限
 講義室 : 工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築			専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	
TH4:情報画像 A 画像システム工学					専門選択 (F30)	その他 (Z99)
学科 コース	入学年度					
T1:工業意匠 A	1997 年 専門選択必修 (F20)					

[授業の方法] 講義

[講義概要] ビジュアルコミュニケーションに関わる媒体 (メディア) が、社会の中でどのような役割を果たしているのか、マス・コミュニケーション媒体を中心にして、その機能と媒体を取り巻く状況について、具体的な事例を上げながら考察する。

[講義目的] メディアデザインに関わる基礎的な素養を身につけること

[講義内容] 第 1 回 オリエンテーション。この講義の概略。わたくしの考えるデザイン - - その中の「視覚媒体論」の位置づけ。 第 2 回 いきなり最終回。「視覚媒体」の果たす社会的役割 - - ライフ掲載の写真をたどって。 第 3 回 マス・コミュニケーション媒体とその特性。マス・コミュニケーション 4 大媒体、その他媒体。ライフサイクルと媒体接触時間。 第 4 回 マス・コミュニケーション機能。環境と疑似環境。疑似環境の環境化。媒体の中継機能と環境創出機能。 第 5 回 マス・コミュニケーション媒体としての新聞。わたくしたちの新聞デザインの研究から・その 1。 第 6 回 報道の客観性と主観。わたくしたちの新聞デザインの研究から・その 2。 第 7 回 媒体の話。媒体の歴史。写真の歴史。 第 8 回 「視覚媒体」のエレメント。写真とイラストレーション。写真表現の特性。写真の見方。 第 9 回 記号の話。記号と意味。ものの記号化、ことの記号化。 第 10 回 二つの写真集を見る。南良和「ある山村・農民」小関与四郎「九十九里浜」。 第 11 回 この授業で課したレポートの紹介と講評。レポート：新聞記事を見て、雑誌の表紙の批評、媒体と新聞の今後について。 第 12 回 コミュニケーションの話。人間コミュニケーション。コミュニケーションモデル。 第 13 回 広告の話。広告制作、代理店、広告費。P.R.、プロバガンダ、パブリシティ。広告と媒体との関係。 第 14 回 C I の話。C I でデザインは変わったか。デザインはひとつ。 第 15 回 もう一度最終回。コミュニケーションの観点から、ふたたびデザインと「視覚媒体」について考える。

[キーワード]

授業科目名 : CG理論
 科目英訳名 : Theory of Computer Graphics (Lec)
 担当教官 : 玉垣 庸一
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T05D

開講時限等: 2 年前期水曜 3 限
 講義室 : 工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築					専門選択 (F30)	
TH:情報画像 A			専門選択 (F30)			
TH4:情報画像 A 画像システム工学					専門選択 (F30)	

[授業の方法] 講義だけ

[講義概要] CGに必要なハードエアならびにソフトウェアの基礎的、およびCGのアルゴリズムの背景となる基礎的な数理に関する講義を行う。コンピュータによる画像生成の数理的な仕組みを色彩情報、形状情報の両側面からとらえて論じる。

[講義目的] CGに関わる基礎的な素養を身につけること

[講義内容] 第1回 CG画像生成システムの概略 第2回 CG画像生成システムの仕組み ハードウェアの基礎 第3回 CG画像生成システムの仕組み アセンブリ言語によるプログラミング 第4回 サブルーチンと push, pop 第5回 2次元アフィン変換 第6回 3次元アフィン変換 図形変換と座標変換 第7回 シーングラフと push, pop 第8回 ワールド座標とローカル座標 -図形変換の構文論と意味論- 第9回 シーングラフからフローチャートへ 第10回 透視変換とフォトリアリズム 第11回 Zバッファアルゴリズム 第12回 レイトレーシングアルゴリズム 第13回 CGと色1 カラーモデルと表色系 第14回 CGと色2 CGの陰影計算と色 第15回 試験

[キーワード]

授業科目名 : 環境デザイン論
 科目英訳名 : Theory of Environmental Design (Lec)
 担当教官 : 清水 忠男
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T05E

開講時限等: 2 年前期木曜 2 限
 講義室 : 工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築			専門選択 (F30)			

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] 私たちが日常生活において強く依存しているのは「人間のつくりだした環境 (human-made environment)」であり、デザインは、対象領域の如何を問わず、多かれ少なかれ、この環境づくりにかかわっている。それゆえデザインは、個別の完結を求めて終わるのではなく、より広く周囲との関わりを意識して行われなければならない。本講義は、このような考えに基づいて、環境の形成にかかわるデザインのあり方を具体例を上げながら論述してゆく。

[講義目的] 人間と環境とのかかわり方を、人間の空間認知や心理や行動や、それらの背後にある社会・文化などを通して理解し、望ましい環境形成に果たす一人一人の役割とデザインの可能性について、ともに考える。また、実際のデザイン例を通して、環境にかかわるデザイン専門領域の拡がりについて学ぶ。

[講義内容] 1) 生活環境とデザインのかかわり / 環境にかかわる多様なデザイン 2) 私たちは空間をどのように認知しているか / 街歩きの楽しさ 学外課題「街かどを再発見する」の説明・道具貸与 3) 学外課題「街かどを再発見する」のための探検・記録 (学外) 4) 学外課題の成果物提出 他人の存在によって規定される空間 / 個人的空間領域 5) 学外課題のプレゼンテーション及びディスカッション 6) 結界 / 仕切り / 公私・内外中間領域の働き / 居心地良さの形成 7) 障害のない環境づくり / ユニバーサルデザイン 8) 移動によって把握される空間 / 公共空間のサインデザイン 9) 環境を形成する製品のデザイン : 身近な環境としての家具を例として 10) 環境から発想する新しい交通の手法と製品 : 高齢化と観光の低迷を解決しようとする新しい自転車 を例として 11) 地域の要求を具現化するデザイン : ある鉄道駅とその周辺広場のデザインを例として 12) 生き生きとした環境をいかにつくるか : こどもの遊環境デザインと福祉医療施設のデザインを例として 13) 個の要求と総体の望ましいあり方をどのようにかわらせるか : 地域を視野に入れた住宅への緑の導入を例として 14) 学生としてできること : 千葉県のある町での学生による活動などを例として 15) まとめのディスカッション / 小論文 (時間内提出)

[キーワード] 環境、デザイン、human-made environment、空間認知、環境行動、ユニバーサルデザイン

[履修条件] 各課題及び小論文は必ず提出のこと。毎回提出するゲーム・レポート等によって確認される出席状況は成績評価に反映する。

[教科書・参考書] 「行動・文化とデザイン」(清水忠男著、SD 選書 鹿島出版会)、「ふれあい空間のデザイン」(清水忠男著、SD 選書 鹿島出版会)、「環境をデザインする」(環境デザイン研究会編、朝倉書店)、「ユニバーサルデザイン入門」(静岡県編、ぎょうせい) その他については、必要に応じて、その都度、指示する

[関連科目] 環境デザイン製図演習、環境デザイン表示論演習、環境デザイン演習、環境デザイン演習、展示デザイン演習、音響デザイン演習

授業科目名 : 環境デザイン製図演習
 科目英訳名 : Environmental Design Drawing Methods (Lab)
 担当教官 : 原 寛道, (高橋 久弥), (藤本 香), 佐藤 公信
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T062, T063
 開講時限等: 2 年前期火曜 4 限後半 / 2 年前期火曜 5 限
 講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築			専門選択 (F30)			

学科 コース	入学年度
T1:工業意匠 A	1997 年 専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 演習

[講義概要] 基礎的な図面表現の方法を、環境デザインに関連する公園、展示、インテリアの各空間を対象としたデザインを行いながら学ぶ。

[講義目的] 環境デザインを行う上で必要とされる各種図面の描き方を理解・修得する。公園計画、展示計画、室内計画などに関わる具体的な事例を基に演習を行う。

[講義内容] 第 1 回 ガイダンス / 公園計画のための製図の基礎 第 2 回 " 第 3 回 " 第 4 回 "
 第 5 回 " 第 6 回 展示計画のための製図の基礎 第 7 回 " 第 8 回 " 第 9 回 "
 第 10 回 " 第 11 回 住宅・小店舗設計のための製図の基礎 第 12 回 " 第 13 回 " 第 14 回 "
 " 第 15 回 "

[キーワード]

授業科目名 : 色彩科学 〔学部・放送大学開放科目〕
 科目英訳名 : Color Science
 担当教官 : 日比野 治雄
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T061

開講時限等: 2 年前期金曜 4 限
 講義室 : 工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境						専門選択 (F30)
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		
TG:電子機械 A			専門選択 (F30)		専門選択 (F30)	
TH:情報画像 A		専門選択 (F30)	専門選択 (F30)			
TH1:情報画像 A 情報工学		専門選択 (F30)				
TH3:情報画像 A 画像材料工学		専門選択 (F30)				
TH4:情報画像 A 画像システム工学		専門選択 (F30)				

[授業の方法] 講義 (一部実習もあり)

[講義概要] 「色彩」について深く理解するためには、色彩を物理的側面と心理的側面の 2 つの側面から考える方法を会得しなければならない。本講義では、一般的に、見過ごされがちな色彩の心理的側面に焦点を当てて講義する。色を体験的に扱う実習課題も行う。

[講義目的] 「色彩」について深く理解するためには、色彩を物理的側面と心理的側面の 2 つの側面から考える方法を会得する必要がある。色は知覚現象であるので、色についての正確な知識を得るためには、その心理的側面に対する認識が不可欠である。しかし一般的に、色彩の心理的側面については、見過ごされがちである。そこで、本授業では、特に色彩の心理的側面に焦点を当てて講義する。また、色を体験的に扱う実習課題も行う予定である。

[講義内容] 以下のようなトピックについて詳しく解説する: 色とは何か (色彩研究の歴史およびニュートンの色彩論など); 色覚の理論 (ヤング・ヘルムホルツの三色説とヘリングの反対色説), 色の体系化 (マンセルの色体系など), 色の測定 (測色学の基礎, 混色と等色, RGB 表色系, CIE 表色系など), 色知覚 (色の知覚現象の例, 色差の弁別, 色の見え, 色順応など), 色覚異常 (色の生理的基礎過程など), 色の応用 (色の応用的側面など), 色研究の現状および全体のまとめ・なお, 上記の講義内容は、都合により変更されることもある。

[キーワード] 色彩, 色, 色覚, 心理学, 知覚

[履修条件] 特に条件はないが、毎回出席することが前提である (毎回出欠をとる)。

[教科書・参考書] 色彩心理学入門 (大山正著) 中公新書 1169

[備考] 受け入れ人数: 100 人程度 成績評価法: 出席, 課題および期末試験

授業科目名 : 環境デザイン表示論演習
 科目英訳名 : Environmental Design Presentation Methods (Lec & Lab)
 担当教官 : 佐藤 公信, (小椋 勇記夫)
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T05F, T060

開講時限等: 2 年後期金曜 1 限後半 / 2 年後期金曜 2 限
 講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築			専門選択 (F30)			専門選択 (F30)

学科 コース	入学年度	
	1997 年	1996 年
TI:工業意匠 A	専門選択必修 (F20)	
TB:情報 B		専門選択 (F30)

[授業の方法] 講義, 演習

[講義概要] 様々な環境の中で、意図する空間のイメージを実際のデザイン提案として具体化するための方法について、平面表示技法、立体表示技法あわせて演習を行う。

[講義目的] 環境デザインを行うために必要な技法を講義・演習を通して理解し、的確な表現手法を習得する。講義では、各種技法の理論的側面を、演習では、基礎的な空間表現から、スケールモデルによる表現、透視図法の着彩技法までを体系的に学ぶ。

[講義内容] 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 パースペクティブ・ドローイングによる空間表示 第 3 回 ショップデザイン 第 4 回 インテリア空間のパース表現 第 5 回 エキジビションデザイン 第 6 回 空間のイメージを伝えるパース技法 第 7 回 プレゼンテーション / 課題講評 第 8 回 ガイダンス / スケールモデルによる空間表現 第 9 回 スタディモデル 面構成による「仕切られた空間」 第 10 回 展示ブースデザイン 第 11 回 スケールモデルの作成、撮影法 第 12 回 プレゼンテーション / 課題講評 第 13 回 公共空間のデザイン 第 14 回 アイディア展開 第 15 回 プレゼンテーション / 課題講評

[キーワード] 空間, パースペクティブドローイング, スケール感

[教科書・参考書] 授業で紹介する資料

授業科目名 : 造形力学論
 科目英訳名 : Dynamics of Objects (Lec)
 担当教官 : 久保 光徳
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T064

開講時限等: 2 年前期金曜 5 限
 講義室 : 工 2 号棟 201 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 自然物、人工物を含めた様々なモノの形状や形態が示す力学的意味の解釈と、その解釈をベースとした力学的な造形過程を可能とするアプローチを、理論的な理解と体験を通して紹介する。

[講義目的] 身近なモノから大型構造物までのモノの形を観察し評価する際の一つの視点である力学的ものの見方を、材料力学・構造力学をベースとした講義と小演習を通して体得させる。特に、一般的なデザイン過程において、モノの外表面に対する配慮のみでなく、そのモノの構造内部の力関係をイメージしながらデザインを進めてゆくことの重要性を示す。

[講義内容] 第 1 回 形と力の関係に対する直感的導入: 長いひもと短いひも 第 2 回 引張りに耐える形: 紙帯に対する検討: E と 第 3 回 外力と内力: 力を伝えるものとその変形 第 4 回 力の伝達: トラスゲーム 1 第 5 回 トラスゲーム 2 第 6 回 曲げに耐える形: 二つのアーチ 第 7 回 自然物の形と力: 枝・竹・骨の形に対する解釈 第 8 回 異方性と等方性 第 9 回 ハニカムサンドイッチパネルの作成と実験 第 10 回 ハニカムオブジェの作成 1: シェルへの挑戦 第 11 回 ハニカムオブジェの作成 2: シェルへの挑戦 第 12 回 CAD/CAE/CAM の体験 1 第 13 回 CAD/CAE/CAM の体験 2 第 14 回 CAD/CAE/CAM の体験 3 第 15 回 CAD/CAE/CAM の体験 4

[キーワード] 形, 力学的造形, CAD/CAE/CAM

[教科書・参考書] 授業にて紹介

[関連科目] 材料計画演習 1

[備考] 基本的に講義形式を取るが、適宜、特定の試験装置を使用した小演習を実施するため、その実施時間は決められた授業時間の枠を超える可能性がある。

授業科目名 : 基礎製品デザイン演習 I
 科目英訳名 :
 担当教官 : 渡邊 誠, (久米 寿明)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T068, T069

開講時限等: 2 年前期水曜 4 限後半 / 2 年前期水曜 5 限
 講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度		
	2002 年	2001 年	1999 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)		
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)		

[授業の方法] 演習

[講義概要] 製品デザインにおいて必要な基礎能力を, 具体的な課題を通して習得する。主に消費財を対象に, それらの抱えるデザインの諸問題の抽出と, その解決法の具体的提案を行うことで, 製品デザインにおける基礎能力を習得する。

[講義目的] 製品デザインの最初の課題であり製品デザインの考え方とプロセスを習得する。基礎製品デザイン演習 I ではモジュールをキーワードにデザインを行う。対象物のモジュールの成り立ちとその考え方からデザインを習得する。この演習は同一のテーマで異なるデザインを 2 つ提案する。同じプロセスを 2 回体験し, 一度目は教官が指導し, 2 度目は各自が独自にアレンジして行う。

[講義内容] 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 デザインコンセプトの作成方法 1 第 3 回 デザインコンセプトの作成方法 2 第 4 回 デザインターゲットの作成方法 1 第 5 回 デザインターゲットの作成方法 2 第 6 回 アイデアスケッチの展開方法 1 第 7 回 アイデアスケッチの展開方法 2 第 8 回 アイデアスケッチの展開方法 3 第 9 回 レンダリングの方法 1 第 10 回 レンダリングの方法 2 第 11 回 レンダリングの方法 3 第 12 回 プレゼンテーションテクニック 1 第 13 回 プレゼンテーションテクニック 2 第 14 回 プレゼンテーションテクニック 3 第 15 回 プレゼンテーションテクニック 4

[キーワード] インダストリアルデザイン, デザインプロセス, モジュールデザイン

[受講対象] ; ;

[履修条件] 製品デザイン表示論演習 I,II が履修済であり, 基礎製品デザイン演習 II と合わせて履修していること

[教科書・参考書] なし

授業科目名 : 基礎製品デザイン演習 II
 科目英訳名 :
 担当教官 : 釜池 光夫, 長尾 徹, (海老澤 伸樹)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T06A, T06B
 開講時限等: 2 年前期月曜 5 限 / 2 年前期水曜 4 限前半
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室), 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 演習

[講義概要] 製品デザインにおいて必要な基礎能力を, 具体的な課題を通して習得する。主に自動車を対象に, それらの抱えるデザインの諸問題の抽出と, その解決法の具体的な提案を行うことで, 製品デザインにおける基礎能力を習得する。

[講義目的] 製品デザインの最初の課題であり製品デザインの考え方とプロセスを習得する。基礎製品デザイン演習 II ではパッケージをキーワードにデザインを行う。対象物と人間との関係をパッケージを考えることで展開するデザインを習得する。

[講義内容] 第 1 回ガイダンス・自動車デザイン開発の流れ, 第 2 回コンセプトおよびパッケージの作成方法 1, 第 3 回コンセプトおよびパッケージの作成方法 2, 第 4 回コンセプトレビュー 1, 第 5 回コンセプトレビュー 2, 第 6 回コンセプトレビュー 3, 第 7 回スケッチの描き方 1, 第 8 回スケッチの描き方 2, 第 9 回スケッチの展開方法 1, 第 10 回スケッチの展開方法 2, 第 11 回コンセプト・スケッチレビュー, 第 12 回レンダリングの描き方, 第 13 回レンダリングレビュー・クリニック, 第 14 回モデルの作り方 1, 第 15 回モデルの作り方 2

[キーワード] インダストリアルデザイン, デザインプロセス, パッケージデザイン

[受講対象] ; ;

[履修条件] 製品デザイン表示論演習 I,II が履修済みであり, 基礎製品デザイン演習 I と合わせて履修していること

[教科書・参考書] なし

授業科目名 : 視覚デザイン演習
 科目英訳名 : Visual Communications Design (Lec & Lab)
 担当教官 : 小原 康裕, (戸塚 泰幸)
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T06D, T06E
 開講時限等: 2 年前期木曜 4 限後半 / 2 年前期木曜 5 限
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室), 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室, 工 1-401 (デザイン実習室), 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築			専門選択 (F30)			

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 情報の視覚化を良質に行うための基礎感度の養成。平面の作業に必要な技術を養う。

[講義内容] 第 1 回 <課題 1> 色面による構成、作品の説明と作業の進め方について 第 2 回 構築物を形成するためのスケッチ 1 水張 第 3 回 構築物を形成するためのスケッチ 2 ベタ塗り 第 4 回 色と形の視覚的効果を考えながら構築物に彩色トレース、転写 第 5 回 <課題 2> 色の調子・素材・質感構成 第 6 回 文字、数字デッサン、デッサンから面を抽出する 第 7 回 絵の具の作る現象を採取 第 8 回 線で囲まれた面に注目し、採取した現象を嵌め込む 第 9 回 素材の質感で表現する 質感を作り出す 質感のみによる平面を構成する 第 10 回 合評 第 11 回 <課題 3> 色の秩序 (カラーシステム) に着目した平面構成 課題の説明 第 12 回 秩序の認識 第 13 回 秩序の表現 (秩序立った色の並びを作る練習) 第 14 回 秩序の表現 (原寸スケッチ) 第 15 回 課題完成、講評。

[キーワード]

[備考] 成績評価法: 課題提出

授業科目名 : デザイン文化計画演習 I
 科目英訳名 : Culture of Design Seminar I (Lec & Lab)
 担当教官 : 宮崎 清, (大澤 浩一)
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T06F, T070

開講時限等: 2 年後期木曜 1 限後半 / 2 年後期木曜 2 限
 講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択 (F30)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

学科	入学年度
コース	1997 年
T1:工業意匠 A	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 演習

[講義概要] 体を支える道具としての「椅子」のもつ多義的意味内容を考察、分析。自分の視座からコンセプトを立てる。コンセプト 成果物のプロセスが明解であること。そして、それが他者を納得させるに足りる創造性に富んでいること。

[講義目的] テーマ、コンセプトが各自の内なる興味から発していること。設計は創造行為であり、その楽しさと苦悶とを実感する。プレゼンテーションの手法と工夫、秩序化（統合化）と創造性、部分と全体、特殊性と普遍性、見えるものと、見えないもの。

[講義内容] 休息行為の観察と考察、コンセプト立案、アイデア表出、スケッチ、現寸スケッチ、作図、模型、寸法、材料、技術、動作など諸間の往復とフィードバック作業の訓練、プレゼンテーションテクニック、プレゼンテーション、工場、ショールーム、図書等の見学。（又は製造者の講義）

[キーワード] コンセプト、創造性、自己表現と伝達

[受講対象] ;

[教科書・参考書] 講義の開始前に掲示にて指定する。

[備考] 2004/1/29 は休講です。

授業科目名 : 材料計画演習 I
 科目英訳名 : Materials Planning and Seminar I (Lec & Lab)
 担当教官 : 久保 光徳, 寺内 文雄
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T072, T073

開講時限等: 2 年後期水曜 1 限後半 / 2 年後期水曜 2 限
 講義室 : 工 2 号棟 201 教室, 工 2 号棟 202 教室, 工 2 号棟 201 教室, 工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

学科	入学年度
コース	1997 年
T1:工業意匠 A	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 演習

[講義概要] 物理・化学的知識のみで理解される傾向にある [材料] を、[もの] を構成する造形材料、そして [ひと] の感性に影響を与える感性情報材料としてとらえなおし、使用レベルでの [材料] の本質的な特性を、「紙製造形物の制作」、および「材料に対するイメージの構造解析」等を通して体験させる。

[講義目的] [材料計画] の枠組みの一部を構成する構造力学的アプローチと実験心理学的アプローチの理解を、演習による体験を通して修得させる。構造学的な材料使用とそれによる構造物の造形過程を体験することで、材料の役割、その位置づけを理解させる。また、材料に対する心理学的なアプローチによる材料イメージの三次元モデルによる構造化の実施を通して、材料とそれの使用者である人とのかかわりについて考察させる。

[講義内容] 第 1 回 ガイダンス、グループ分け 第 2 回 紙製大型構造物の制作 1 第 3 回 紙製大型構造物の制作 2 第 4 回 紙製大型構造物の制作 3 第 5 回 紙製大型構造物の制作 4 第 6 回 紙製大型構造物の制作 5 第 7 回 紙製大型構造物の作品評価 第 8 回 材料イメージ構造の解析と三次元モデルの制作 第 9 回 材料イメージ構造の解析と三次元モデルの制作 第 10 回 材料イメージ構造の解析と三次元モデルの制作 第 11 回 材料イメージ構造の解析と三次元モデルの制作 第 12 回 電子顕微鏡による材料表面の観察 第 13 回 天然有機材料を対象とした物理・化学実験 第 14 回 プレゼンテーション準備 第 15 回 プレゼンテーション

[キーワード] 材料イメージ, 三次元モデル, 紙製大型構造物

[関連科目] 造形力学論

[備考] 準備品等は後日連絡;

授業科目名 : 材料開発計画
 科目英訳名 : Design for Materials Development (Lec)
 担当教官 : (菊地 紀洋)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T074

開講時限等: 2年後期月曜 4 限
 講義室 : 工 2 号棟 201 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003年	2002年	2001年	2000年	1999年	1998年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		専門選択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築						専門選択 (F30)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 新材料開発のための思考過程、方法、その実際等にわたる計画・立案に関する内容を講義する。特に、プラスチック材料の基礎物性から、改良、そして応用領域まで言及し、材料開発に関する最新の情報を提供する。また、加工技術について概説し、プラスチック製品の形態とその意味を説明する。

[講義内容] 第1回 材料開発とは何か、第2回 プラスチック材料の基礎物性(1)、第3回 プラスチック材料の基礎物性(2)、第4回 プラスチック材料の改良(1)、第5回 プラスチック材料の改良(2)、第6回 プラスチック材料の応用領域、第7回 各種複合材料開発の現状と応用製品例、第8回 加工技術開発(1)、第9回 加工技術開発(2)、第10回 加工技術開発(3)、第11回 加工技術開発(4)、第12回 加工技術開発(5)、第13回 プラスチック材料と環境問題、第14回 材料開発と工業デザインの接点、第15回 まとめ

[キーワード]

[教科書・参考書] 授業時に指示する。

[備考] 成績評価法: テスト他

授業科目名 : 基礎デザイン論 II
 科目英訳名 : Theory of Design Fundamentals II (Lec)
 担当教官 : 堀田 明博
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T075

開講時限等: 2年後期火曜 1 限
 講義室 : 工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003年	2002年	2001年	2000年	1999年	1998年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 生活環境デザインの基本的概念、生活環境と人間特性との関係、ユーザ要求の特性とその収集の方法、ユーザ要求解決のプロセス、これらに伴う美的な問題等デザイナーとしての基本知識を身につける。

[講義目的] 生活環境デザインの基礎的知識としてデザインの基本的概念と、人間特性と生活環境を構成する製品や空間の特性との関係及びこれらに基づいたデザインプロセスについて理解する。更に、デザインにおける形態等の基本的構成原理に関する知識、また、デザインが社会的な活動という視点から、社会的問題とデザインとの関係を理解する。

[講義内容] 1. 本講義の概要、目標 2. デザインの概念、定義 3. デザインの対象とそのシステム 4. デザインにおける要求の種類とそのレベル 5. 具体的な要求表現とデザインの関係 6. 思考のメカニズムモデル 7. デザインのプロセス 8. デザインサーベイの目的と方法 9. デザインの発想方法 10. デザインに關係する人間要因 11. デザインと美術・工芸の關係 12. デザインと機能の關係 13. デザインと視覚リテラシ- 14. デザインと標準、安全性 15. 試験

[キーワード] デザイン、生活、ユーザ、要求

[受講対象] デザイン工学科意匠系 2年

[履修条件] 特になし

[教科書・参考書] 参考書 / 池辺陽: デザインの鍵、丸善、1992

[関連科目] 基礎デザイン論 I

授業科目名 : 造形デザイン演習・立体
 科目英訳名 : Sculpture (Lec & Lab)
 担当教官 : 瀧 徹, 田内 隆利
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T08F, T090
 開講時限等: 2 年後期月曜 2 限後半 / 2 年後期月曜 3 限
 講義室 : 工 2 - 工房, 工 2-アトリエ (2-601), 工 2 - 工房, 工 2-アトリエ (2-601)

科目区分表

学科 コース	入学年度					学科 コース	入学年度 1997 年
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年		
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		T1:工業意匠 A	専門選択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TF4:デザイン A 建築				専門選択 (F30)			

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] 造形表現の基礎は事物を観察し、それを客観的に表現することであり、イメージした形を自分の視点で表現していく中で、一人一人の感性を通じ、客観性を持ちながら創造性の高いものをめざす。実習を通じて立体造形に対する視点、素材の特性と加工技術の関係、構造的機能と表現性の追求など、多面的な感性を養う。

[講義目的] 立体造形におけるデザイン力を、思考と手作業を連動させて習得することを目的とする。この演習では各種素材と人体塑像による立体感覚の習得により高度な造形デザイン力を養う。

[講義内容] 第 1 回 テーマ、素材、道具の説明 第 2 回 デッサンによりイメージをまとめる 第 3 回 分割した木を組み立て立体のイメージを掴む 第 4 回 素材の大きさ、構成と形の関係 第 5 回 全体の中でそれぞれの形の性質を見る 第 6 回 テーマおよびイメージの方向性、表現方法 第 7 回 バランスを考えた形の整理 第 8 回 イメージを組み立てながら細部の形を作る 第 9 回 完成、講評 第 10 回 クロッキー、鉛筆を使い線による表現、動感を大きくとらえる 第 11 回 クロッキー、コンテを使い量的な形を追う 第 12 回 同上 第 13 回 テラコッタ用粘土による制作 第 14 回 完成 第 15 回 窯にて素焼

[キーワード]

授業科目名 : デザインシステム計画 I
 科目英訳名 : Design Systems Planning I (Lec)
 担当教官 : 杉山 和雄, 渡邊 誠
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T076
 開講時限等: 2 年後期火曜 2 限
 講義室 : 工 2 号棟 201 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

学科 コース	入学年度 1997 年
T1:工業意匠 A	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 講義

[講義概要] デザイン企画の考え方やそのための情報分析, 具体的な計画に当たっての技術・要件のシステム論的扱い方などを、製品デザイン解析を応用しながら実例によって考察する。

[講義目的] デザインシステム計画では、デザインマネジメントするのに必要なシステムの側面から見たデザインについて理解することを目的としている。さらにこのデザインのシステムの側面は、さまざまなものが上げられるが本講義ではこれらを包括的に理解することを目的としている。

[講義内容] 第 1 回ガイダンス, 第 2 回デザインにおけるシステムとは, 第 3 回企業におけるデザイン部門, 第 4 回デザインにおけるマネジメント, 第 5 回デザインプロセス 1, 第 6 回デザインプロセス 2, 第 7 回デザインと CAD, 第 8 回商品ラインナップとデザイン 1, 第 9 回商品ラインナップとデザイン 2, 第 10 回モデルチェンジとデザイン, 第 11 回公共物とデザイン 1, 第 12 回公共物とデザイン 2, 第 13 回ユーザーインターフェイスデザイン 1, 第 14 回ユーザーインターフェイスデザイン 2, 第 15 回試験

[キーワード] デザインシステム, デザインマネジメント

[履修条件] なし

[教科書・参考書] 別途指示

[関連科目] デザインシステム計画 II

授業科目名 : 製品デザイン演習 I
 科目英訳名 : Product Design I (Lab)
 担当教官 : 釜池 光夫, 長尾 徹, (宮城 壮太郎)
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T077, T078
 開講時限等: 2 年後期火曜 4 限 / 2 年後期火曜 5 限前半
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室), 工 2-アトリ
 工 (2-601), 工 1-401 (デザイン実習室),
 工 2-アトリ工 (2-601)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択必修 (F20)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択必修 (F20)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 演習

[講義概要] デザインにおいて重要なフォルムの展開方法を演習を通じて習得する。具体的なフォルムの考え方, コンセプトからフォルムへの展開を中真に, メタファーからフォルムへの展開, 機能とフォルムのチューニングを演習により習得する。

[講義目的] 身の回りの家電製品を対象に, 機能・性能とフォルムとの整合を取る。スタイリングに特化した演習であり, 製品デザイン演習?は新しく考えた機能や性能あるいは様々な特徴を確実に形として成り立たせ, かつ美しく整ったデザインを完成させる。機能・性能よりのデザインコンセプト主導型のスタイリングを習得する。

[講義内容] 第 1 回ガイダンス・デザインレビュー, 第 2 回デザインレビュー, 第 3 回デザインコンセプト, 第 4 回デザインコンセプト, 第 5 回フォルムコンセプト, 第 6 回フォルムコンセプト, 第 7 回フォルム展開 1, 第 8 回フォルム展開 2, 第 9 回フォルム展開 3, 第 10 回フォルムレビュー, 第 11 回フォルムチューニング 1, 第 12 回フォルムチューニング 2, 第 13 回フォルムチューニング 3, 第 14 回モデリング, 第 15 回モデリング

[キーワード] インダストリアルデザイン, フォルム, ファンクション

[履修条件] 製品デザイン表示論演習 I,II, 基礎製品デザイン演習 I,II を履修していること, 製品デザイン演習 II と合わせて履修すること

[教科書・参考書] なし

授業科目名 : 製品人間工学
 科目英訳名 : Products Ergonomics (Lec)
 担当教官 : 勝浦 哲夫, 岩永 光一
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T079
 開講時限等: 2 年後期月曜 5 限
 講義室 : 工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 使いやすい機器をデザインするためには人間の身体構造・機能の理解が必要である。特に身体運動の基礎となる神経筋機能、循環機能を中心に講義を行う。また、機器やインタフェースにおけるエルゴデザインの事例を紹介し、解説するとともに、デザイン評価としての人間工学の実験計画の基礎についても解説する。

[講義目的] 製品開発における人間工学の役割と意義に関する基礎的な理解を深めるとともに、人間工学的デザイン評価の実際に関する理解を求める。また、人間工学における実験計画法、有意差検定などの統計的方法についての基礎的な知識を修得する。

[講義内容] 第 1 回 序論: 製品人間工学とはなにか 第 2 回 手の働きと製品デザイン 第 3 回 製品人間工学の事例 (1) 第 4 回 製品人間工学の事例 (2) 第 5 回 筋の構造と筋収縮 (1) 第 6 回 筋の構造と筋収縮 (2) 第 7 回 筋活動の測定と評価 第 8 回 製品人間工学の事例 (3) 第 9 回 製品人間工学の事例 (4) 第 10 回 インタフェースデザインと人間工学 第 11 回 人間工学における統計的方法の役割 第 12 回 人間工学における実験計画法 第 13 回 統計的方法 (1) 正規分布と t - 検定 第 14 回 統計的方法 (2) 分散分析 第 15 回 期末テスト

[キーワード]

[教科書・参考書] 「身体の機能と構造計測マニュアル」垣鏑・勝浦・山崎訳、文光堂。「環境人間工学」佐藤方彦・勝浦哲夫著、朝倉書店。

[備考] 受け入れ人数: 90 名以内 成績評価法: テスト他

授業科目名 : デザイン文化計画演習 II
 科目英訳名 : Culture of Design Seminar II (Lec & Lab)
 担当教官 : 宮崎 清
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T07A, T07B

開講時限等: 3 年前期木曜 1 限後半 / 3 年前期木曜 2 限
 講義室 : 工 2 号棟 201 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築						専門選択 (F30)

[授業の方法] 演習

[講義概要] 地域社会におけるデザイン文化諸相を、近隣地域におけるフィールド・サーベイを通して把握・解析する。また、得られた知見を社会に向けたデザイン提案としてまとめる。夏季休業中に、1 週間程度の学外におけるフィールド・サーベイを行う。

[講義目的] デザインは、「人間生活のあるべき姿」の探求と提案の行為である。それゆえ、「これまで」および「今日」の文明についての総点検を欠かすことができない。それゆえに、「野に出て生活を学ぶ」フィールド・サーベイを通じて、人びとの生活の総体をそれぞれの地域の歴史的風土のなかでしっかりとみつめることが重要である。本演習は歴史的な脈のなかで人びとの生活の「あるべき姿」を考察・提案する資質を涵養することが目的である。

[講義内容] (1) 地域社会における自然との共生のデザイン、(2) 地域社会における資源利活用のデザイン、(3) 地域社会におけるアノニマス・デザイン、(4) 地域社会における環境・景観形成のデザイン、(5) 調査地の概要の把握、(6) テーマ設定と調査計画の検討、(7) 調査項目の検討、(8) ~ (11) フィールド・サーベイの実施、(12) フィールド・サーベイのまとめ、(13) フィールド・サーベイに基づいたデザイン提案の検討、(14) 報告会の開催、(15) フィールド・サーベイを通じたデザイン文化の展望

[キーワード] デザイン、フィールド・サーベイ、生活、文化、プレゼンテーション

[教科書・参考書] 授業のなかで紹介する。

授業科目名 : 人間工学演習 I
 科目英訳名 : Experiments on Ergonomics I (Lec & Lab)
 担当教官 : 勝浦 哲夫, 岩永 光一, 下村 義弘, (垣鏑 直), (富岡 慶)
 単位数 : 5.0 単位
 履修登録コード: T07C, T07D, T07E
 開講時限等: 3 年前期月曜 3 限後半 / 3 年前期月曜 4,5 限
 講義室 : 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室, 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室, 工学部, 工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		専門選択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インタストリアルデザイン インタストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 演習

[講義概要] 人間工学的デザインに関する演習・講義を行い、測定手法、解析手法等を実践的に学習する。演習内容としては、使いやすさや生体の負担を少なくすることを目的とした実験・デザイン提案を行う。

[講義目的] 人間工学的実験を通して、基本的な測定・解析手法の理解を深めるとともに、それらを実践できる技術の獲得を目指す。また、実験結果に基づいたデザイン提案の考え方について考察する。また、最新のデザイン実践における人間工学領域の実際についての理解を深める。

[講義内容] 3 つにグループ分けし、それぞれ 3 つのテーマについて実験、解析、パネル作成および研究発表を行う。
 第 1 回 実験概要の説明 第 2 回 実験データ解析方法について 第 3 回 製品人間工学に関する研究 (1) 第 4 回 製品人間工学に関する研究 (2) 第 5 回 製品人間工学に関する研究 (3) 第 6 回 インタフェースに関する研究 (1) 第 7 回 インタフェースに関する研究 (2) 第 8 回 インタフェースに関する研究 (3) 第 9 回 環境人間工学に関する研究 (1) 第 10 回 環境人間工学に関する研究 (2) 第 11 回 環境人間工学に関する研究 (3) 第 12 回 人間工学の実際 (1) 第 13 回 人間工学の実際 (2) 第 14 回 研究発表会 第 15 回 研究発表会

[キーワード]

[教科書・参考書] 「身体の機能と構造計測マニュアル」垣鏑・勝浦・山崎訳、文光堂。「環境人間工学」佐藤方彦・勝浦哲夫著、朝倉書店。「マンマシン・インターフェイス」佐藤方彦編、朝倉書店。

[備考] 成績評価法: 出席、態度、プレゼンテーション

授業科目名 : 材料計画演習 II
 科目英訳名 : Materials Planning and Seminar II (Lec & Lab)
 担当教官 : 青木 弘行, (松岡 由幸), (山中 敏正)
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T07F, T080
 開講時限等: 3 年前期月曜 1 限後半 / 3 年前期月曜 2 限
 講義室 : 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室, 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インタストリアルデザイン インタストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 演習および講義

[講義概要] デザイン材料に要求される性能と使われ方との関係を理論および演習の両側面から検討する。具体的には、[材料と感性との関わり]、[デザイン解としての材料と構造・形態との最適な関係] 等について、その考え方、理論、そして取り組み方を演習によって体験する。

[講義目的] 理論と演習を通してデザインにおける材料計画のあり方を体得し、デザインに対する総合的な解析能力を養う。

[講義内容] 以下に示す課題を行い、ポートフォリオとして視覚化する。(1) 製品の使われ方の調査から使い方を設計し、それをデザインへと展開する方法を検討する。(2) 製品が有する材料特性を解析し、そこから得られた知見を活用して新製品の提案を行う。(3) 人工素材で造られた観葉植物、建築材料、展示用食品サンプル等の価値分析を行い、イミテーション材料の意味と今後の可能性について検討する。(4) 製品の分解過程を体験し、材料活用や解体容易化設計のあり方を検討する。

[キーワード]

[関連科目] 材料計画論、造形力学論、材料計画演習 I

[備考] 準備品等は後日連絡

授業科目名 : デザインシステム計画演習 I
 科目英訳名 : Design Systems Planning I (Lab)
 担当教官 : 杉山 和雄, 釜池 光夫, (上田 義弘)
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T083, T084
 開講時限等: 3 年前期水曜 4 限後半 / 3 年前期水曜 5 限
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		専門選択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 演習

[講義概要] 本演習は、インダストリアル・デザインの全てのプロセスを通じてその方法と展開について習得する。本演習では新しい機能の合成・中と外の融合をテーマに (P) では電子化ツールのデザインを (T) ではトランスポーターションのデザインを演習により習得する。

[講義目的] (P) 現在スタンダードになっている電子化された工業製品を、ソフトおよびハードの両方の側面よりデザインする。この場合の中と外の融合とはソフトとハードの融合を意味する。当然のことながらプロダクトインターフェイスが一つの大きなテーマとなり、新しい機能の提案とそれを受けることができるデザインを行う。アピアランスおよびソフトの双方の提案を行う。(T) 新しいコンセプトの提案にともなうトランスポーターションのデザインを行う。ここでの機能とは、ハード的な側面よりもむしろどのように車を使うのかというソフトの提案から機能すなわち形や使い勝手に展開することを示している。今日存在しないコンセプトおよびパッケージに基づき、エクステリア・インテリア双方の提案を行う。

[講義内容] 第 1 回ガイダンス・デザインレビュー, 第 2 回デザインレビュー, 第 3 回コンセプト開発とデザイン, 第 4 回技術の発展予測とデザイン, 第 5 回コンセプト開発テーマの選定, 第 6 回ユーザーターゲットの設定, 第 7 回シナリオ設定とデザイン展開, 第 8 回デザイン展開 1, 第 9 回デザイン展開 2, 第 10 回デザインチューニング, 第 11 回デザインクリニック, 第 12 回アピアランス・エクステリアレビュー, 第 13 回ソフトウェアインターフェイス・インテリアレビュー, 第 14 回プレゼンテーション準備 1, 第 15 回プレゼンテーション準備 2

[キーワード] インダストリアルデザイン, アピアランス, ソフト, エクステリア, インテリア

[履修条件] 製品デザイン表示論演習 I,II, 基礎製品デザイン演習 I,II, 製品デザイン演習 I,II 履修していること

[教科書・参考書] なし

[備考] 受講者は (P) 電子化ツールのデザイン・(T) トランスポーターションのデザインどちらかを受講すること。
(P) は水曜日 4 コマの半分-5 コマ (T) は金曜日 3 コマ-4 コマの半分で開講する。

授業科目名 : 製品デザイン演習 II
 科目英訳名 : Product Design II (Lab)
 担当教官 : 釜池 光夫, 長尾 徹,
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T087, T088

開講時限等: 2 年後期木曜 4 限後半 / 2 年後期木曜 5 限
 講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		専門選択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 演習

[講義概要] デザインにおいて重要なシェイプの展開方法を演習を通じて習得する。具体的なシェイプの考え方、コンセプトからシェイプへの展開を中真に、シェイプの展開方法、シェイプのチューニングを演習により習得する。

[講義目的] 乗るもの・遊ぶものをテーマに、トランスポーターションに発展させることが可能な領域での演習を行う。最終的なデザインは、イメージシェイプを完成させるが必ずしもタイヤがついた自動車の形をしていなくても良い。製品デザイン演習?は、ユーザーやイメージを主体としたコンセプトを立案しそれを具現化するかわちシェイプとして完成させる。機能にコンセプトの比重を置かない。

[講義内容] 第 1 回ガイダンス・デザインレビュー、第 2 回 デザインレビュー、第 3 回デザインコンセプト、第 4 回デザインコンセプト、第 5 回シェイプコンセプト、第 6 回シェイプコンセプト、第 7 回シェイプ展開 1、第 8 回シェイプ展開 2、第 9 回シェイプ展開 3、第 10 回シェイプレビュー、第 11 回シェイプチューニング 1、第 12 回シェイプチューニング 2、第 13 回シェイプチューニング 3、第 14 回モデリング、第 15 回モデリング

[キーワード] インダストリアルデザイン、シェイプ、スタイリング

[履修条件] 製品デザイン表示論演習 I,II, 基礎製品デザイン演習 I,II を履修していること、製品デザイン演習 I と合わせて履修すること

[教科書・参考書] なし

授業科目名 : 環境デザイン演習 I
 科目英訳名 : Environmental Design I (Lec & Lab)
 担当教官 : 清水 忠男
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T089, T08A
 開講時限等: 3 年前期金曜 4 限後半 / 3 年前期金曜 5 限
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		専門選択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築			専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		
学科 コース	入学年度 1997 年					
TI:工業意匠 A	専門選択必修 (F20)					

[授業の方法] 演習

[講義概要] 最も身近な環境形成要素である身体支持具 (椅子、ソファ、ベンチ、車椅子等) を対象とした幾つかの選択課題から一つを選び、使用者の要求や使用場所の条件等の調査を経て、製品とそれが使われる場のデザイン提案を行う。各課題の優秀作品は、企業の協力を得て実物製作を行い、家具デザインコンペや、東京と大阪で開催される学生家具デザイン展への応募・出品推薦の対象となる。

[講義目的] 「環境」は、言い換えれば「人間をとりまく状況」なのだから、誰もが日常的に接していることだ。現実を目を注げば、きわめて多くの多様なデザインの課題が広がっていることに気づかせられる。本演習では、最も身近な環境形成要素である身体支持具のデザインを手がかりに、使用者と製品・空間とのかかわりを総合的にとらえる環境デザインの基本を学んで行く。

[講義内容] 日程 1) 講義: 環境としての身体支持具 講義: 環境形成製品と場のデザイン: あるデザイナーの仕事为例として選択課題の説明 2) 講義: 各課題の背景 / 企業における開発の実際 3) 調査 (学外) 4) 講義: 環境形成製品と使用される場とのかかわり 5) 調査結果と基本方針の発表 / 講評 6) 講義: 身体支持具に関する人間工学的・心理学的の基本と可能性 講義: 身体支持具に関する構造・材料の基本と可能性 7) 講義: 身体支持具の開発プロセスと図面表現 / 模型製作技法 8) 作業 / 個別相談 9) 作業 / 個別相談 10) 身体支持具のデザイン提案の発表 / 講評 11) 環境形成製品と使用される場の図面表現 / 模型製作技法 12) 調査 (学外) 13) 作業 / 個別相談 14) 作業 / 個別相談 15) 使用される場を含めた総合的デザイン提案の発表 / 講評 全課程終了後、選ばれたデザイン提案は、さらなる特別指導を経て、各協力企業の関連工場等で実習方式をとりながら実物製作に進み、その他の優秀作品とともに、秋期に学内外で発表展示を行い、各種デザインコンペや、東京と大阪で開催される学生家具デザイン展への応募・出品推薦の対象となる。なお、上記課程とは別に協力企業のショールーム見学 (任意参加) を行う。

[キーワード] 環境形成製品のデザイン, 身体支持具のデザイン, 家具デザイン, 場のデザイン

[履修条件] 毎回、与えられたテーマに関するコメントを出席票を兼ねた用紙に記入して提出。出席数が 10 回に満たない場合、また、課題の一部でも提出されなかった場合は、原則として単位は与えられない。成績評価は、各課題の成績と、各回に提出されたコメントの内容、出席状況を総合して行う。

[教科書・参考書] 必要に応じて、指示や紹介を行う。

授業科目名 : デザイン心理学演習 I
 科目英訳名 : Design Psychology I (Lec & Lab)
 担当教官 : 日比野 治雄
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T08B, T08C

開講時限等: 3 年前期火曜 3 限 / 3 年前期火曜 4 限前半
 講義室 : 工 2 号棟 101 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 演習

[講義概要] デザインを受容するのは人間であるから、人間の行動や心理の特性について深く考察することは、より良いデザインを志向する上で、極めて重要な意味を持つ。そこで、本演習では、人間とデザインとの関わりに対する心理学的なアプローチの基礎について学ぶ。

[講義目的] 我々人間の身の回りに存在するあらゆるもののデザインを受容するのは人間である。この自明の事実注目すれば、人間の行動や心理の特性について深く考察することは、より良いデザインを志向する上で、極めて重要な意味を持っていることが分かるであろう。本科目では、このような視点から、人間とデザインとの関わりに対する心理学的なアプローチについて、実習的な課題も折り込みながら、体験的にその基礎から学んで行く。

[講義内容] 以下のような内容について、演習形式で学ぶ機会を設ける：人間の知覚の基礎（知覚とはどのようなものかについて多角的に考える）；「見る」とは？（視覚系の生理学的側面およびその心理学的側面）；形の知覚（「かたち」の知覚，図と地など）；色の知覚（色彩を知覚する能力，色彩に対する心理的反応など）；デザイン心理学の基礎（デザインを心理学の観点から捉える）；その他 実習課題も行いながら，学生自身が学んだ成果をプレゼンテーションの形で発表する場も設ける。・上記の講義内容は都合により変更されることもある。

[キーワード] デザイン心理学，色彩，形，知覚

[履修条件] 色彩科学を履修していること。また、毎回出席することが前提である（遅刻・欠席厳禁!!）。

[教科書・参考書] 美と造形の心理学（北大路書房）

[関連科目] 色彩科学，デザイン心理学演習 II

[備考] 受け入れ人数：40人程度 成績評価方法：課題および発表

授業科目名 : 造形デザイン演習・平面
 科目英訳名 : Tableau (Lec & Lab)
 担当教官 : 堀田 明博, 瀧 徹, 田内 隆利, (小林 基輝)
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T08D, T08E

開講時限等: 3 年前期木曜 4 限 / 3 年前期木曜 5 限前半
 講義室 : 工 版画工房 (T2-104), 工 2 - 工房, 工 版画工房 (T2-104), 工 2 - 工房

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択 (F30)

学科	入学年度
コース	1997 年
T1:工業意匠 A	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 演習

[講義概要] 平面造形デザインにおける計画力と表現力を、具象的モチーフ、抽象的モチーフを通して身につけることを目的とする。表現方法はコンピュータ上での操作と版画制作を応用する。

[講義目的] 平面空間における造形デザインの計画力、構成力及び表現力を、具象的なモチーフ、抽象的モチーフを通して習得することを目的とする。また、表現にはコンピュータ、版画手法を用いるが、その制作手法の違いによる表現結果の特性を理解することも目的である。

[講義内容] 1. 演習の目的及び課題の概要、制作方法、道具等の説明 2. 第 1 課題 (人物の表現) の素描, 下絵
 制作 3. 同上 4. エッチングによる制作 5. 同上 6. 第 2 課題 (対の意図の表現) の素描, 下絵
 制作 7. 同上 8. 平版画技法による制作 9. 同上 10. 第 2 課題の Mac による下絵バリエーショ
 ンの制作 11. 同上 12. 自由に加筆制作 13. 同上 14. 版画専門用紙への刷り 15. 講評、採点

[キーワード] デザイン、平面、造形、構成、

[受講対象] デザイン工学科意匠系 3 年

[履修条件] 2 年次で基礎デザイン論 II を履修していることが望ましい。

[関連科目] 基礎デザイン論 II

授業科目名 : 生活デザイン造形演習
 科目英訳名 : Forming for Living Design (Lec & Lab)
 担当教官 : 堀田 明博, 田内 隆利
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T081, T082

開講時限等: 3 年前期水曜 1 限 / 3 年前期水曜 2 限前半
 講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 演習

[講義概要] 様々な身体特性を持つユーザを配慮した日常生活製品及び空間のデザイン能力を身につけることを目的とする。ユーザの身体特性や要求と製品・空間使用との関係に生じる問題の発見能力と、これを造形として解決する能力を養う。

[講義目的] 種々の身体特性をもつユーザと生活における製品・空間使用との関係で生じる問題発見能力を、イメージスケッチ等絵画作業で養い、これを平面造形及び立体造形として解決する能力を身につける。また、同時にこれらの解決案を視覚的表現、3次元モデル等の立体的表現によって伝達するための表現能力等を身につける。

[講義内容] 1. 授業目的の説明 2. 第 1 課題のデザインコンセプトをイメージスケッチで抽出 3. 絵画作業等で検討 4. 同前 5. 平面・立体プレゼンテーション 6. 第 2 課題の説明 7. デザインコンセプトをイメージスケッチで抽出 8. 絵画作業等で検討 9. 同前 10. 平面・立体プレゼンテーション 11. 第 3 課題の説明 12. インフォメーションシステムの調査 13. デザインコンセプトをイメージスケッチで抽出 14. 絵画作業等で検討 15. 平面・立体プレゼンテーション

[キーワード] デザイン、ユーザ、生活、造形

[受講対象] デザイン工学科意匠系 3 年

[履修条件] 2 年次で基礎デザイン論 II を履修していること。

[関連科目] 基礎デザイン論 II

授業科目名 : 環境デザイン演習 II
 科目英訳名 : Environmental Design II (Lec & Lab)
 担当教官 : 清水 忠男
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T091, T092
 開講時限等: 3 年後期金曜 4 限後半 / 3 年後期金曜 5 限
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 演習

[講義概要] 千葉県内の具体的な地域を対象に、現地踏査や地元の方々とのワークショップ等を行い、その地域のかかえている問題点や可能性を把握し、デザインの貢献し得るテーマを選んで、提案を行う。作業はグループによって行われ、多くの専門家の助言も得て、レベルの高い実効性のある提案にまとめる。

[講義目的] 環境デザインを行う際、最も重要なことの一つは、多様な要求を関係づけながら総合的に考察して提案にまとめる技法や能力である。また、もう一つは、そうした問題解決の過程や提案において多様な人々の協力や理解を得る技法や能力である。それらは、机上では得られない。現場とのかかわりを通して身につけられるのである。本演習では、具体的なプロジェクトやグループ作業を通して、学生諸君が持っているそうした可能性を引き出し発展させることを目指す。

[講義内容] 内容 1) ガイダンス / 各人の興味対象 (選択肢) の仮決定 対象別に調査方法に関するグループディスカッション 2) 現地調査 (初回の合同調査を除きグループごとに日程等を決定) 3) 調査報告と基本方針の作成作業 4) 調査報告と基本方針の作成作業 5) 調査報告と基本方針の発表・講評 招待講演 (関連領域の専門家) 6) 現地追加調査 / 地元の方々との意見交換 (グループごとに日程等を決定) 7) 基本デザイン提案作成作業 8) 基本デザイン提案作成作業 9) 基本デザイン提案の発表 / 講評 招待講演 (関連領域の専門家) 10) 中間発表会・地元の方々との意見交換 11) 現地追加調査 (グループごとに日程を決定) 12) 最終デザインのための作業 13) 最終デザインのための作業 14) 最終デザインの発表 / 講評 15) 最終発表会・地元の方々との意見交換 * 地元の方々との意見交換の日程は、学生グループや地元の方々の都合により決定される。

[キーワード] 環境デザイン, 地域計画, 地域振興, 街路計画, 広場計画, 公共サイン計画

[履修条件] 毎回、与えられたテーマに関するコメントを出席票を兼ねた用紙に記入して提出。出席数が 10 回に満たない場合、また、チーム作業への貢献度が極めて低い場合は、原則として単位は与えられない。成績評価は、チーム全体の成果に対する評価とチーム作業への貢献度、各回に提出された個人のコメントの内容、出席状況を総合して行う。

[教科書・参考書] 必要に応じて、指示や紹介を行う。

授業科目名 : 生理人類学
 科目英訳名 : Physiological Anthropology (Lec)
 担当教官 : 勝浦 哲夫, 岩永 光一
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T093

開講時限等: 3 年後期火曜 2 限
 講義室 : 工 2 号棟 101 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 講義

[講義概要] デザインにおいて人間の機能とその特性を把握しておくことは重要である。生物としての人間の機能と特性について、進化の過程と現代の科学技術文明の視点から解説し、真に健康で快適な生活環境の構築に貢献するデザインの方向性について論じる。

[講義目的] 生物としての人間の存在についての理解を求め、現在の科学技術に支えられた生活環境と人間との関係を、人間の生物学的特性から考察しうる能力の獲得を目指す。その上で、真に快適で健康な生活環境の構築を目指す生理人類学の視点から、デザインの進むべき方向性を考察する。

[講義内容] 第 1 回 人類の進化・技術文明社会と生理人類学 第 2 回 人間の中樞神経系の構造と機能 (1)
 第 3 回 人間の中樞神経系の構造と機能 (2) 第 4 回 人間の high 次神経活動からみた快適性 (1) 第
 5 回 人間の high 次神経活動からみた快適性 (2) 第 6 回 人間特性としての疲労 第 7 回 疲労の評価
 手法 第 8 回 生理人類学とデザイン 第 9 回 人工環境と自然環境 第 10 回 温熱環境と人間 (1)
 第 11 回 温熱環境と人間 (2) 第 12 回 温熱環境と人間 (3) 第 13 回 光環境と人間 (1)
 第 14 回 光環境と人間 (2) 第 15 回 期末テスト

[キーワード]

[教科書・参考書] 「環境人間工学」佐藤方彦・勝浦哲夫著、朝倉書店、「最新生理人類学」佐藤方彦編、朝倉書店。

[備考] 成績評価法: テスト他

授業科目名 : 材料計画演習 III
 科目英訳名 : Materials Planning and Seminar III (Lec & Lab)
 担当教官 : 青木 弘行, 久保 光徳, 寺内 文雄
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T094, T095
 開講時限等: 3 年後期木曜 4 限後半 / 3 年後期木曜 5 限
 講義室 : 工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

学科 コース	入学年度
T1:工業意匠 A	1997 年
専門選択必修 (F20)	

[授業の方法] 演習および講義

[講義概要] デザイン材料に関連した諸問題をグル - プ作業を通して考察、検討する。得られた成果はビジュアルな媒体にまとめて発表・討論会を行い、最終成果物を報告書として制作する。特に、グループ作業を通しての意見交換、およびそれらの整理・統合、そしてプレゼンテーションへのアプローチの体験を重視する。

[講義目的] 材料計画演習における最終段階として、問題発見能力・問題解決能力・コラボレーション能力・プレゼンテーション能力等々、より高度な創造性能力を体得する。

[講義内容] 第 1 回: 主旨説明と前年度までの成果概説、 第 2 回: デザイン材料に関連した諸問題の抽出、
 第 3 回: 提起された問題に対する解決策の視点と論点に関する講義、 第 4 回: 問題解決策の検討、 第 5 回: 検討内容の構造的に整理とメインテーマ、サブテーマの階層化、 第 6 回: 問題解決の視点・論点を再検討、 第 7 回: 問題解決策の構造明確化、 第 8 回: サブテーマごとでの検討作業、 第 9 回: 同上、 第 10 回: 中間発表、 第 11 回: 問題解決策の検討、 第 12 回: 発表・討論会準備、 第 13 回: 発表・討論会、 第 14 回: 報告書の構想検討、 第 15 回: 報告書作成

[キーワード]

[教科書・参考書] 授業時に指示する。

[関連科目] 材料計画論、造形力学論、材料計画演習 I、材料計画演習 II

[備考] 夏期休業期間中に集中合宿を行う予定。

授業科目名 : デザインシステム計画 II
 科目英訳名 : Design Systems Planning II (Lec)
 担当教官 : 杉山 和雄, 渡邊 誠
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T096
 開講時限等: 3 年後期火曜 1 限
 講義室 : 工 2 号棟 201 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 製品デザインの企画・デザインプロセスにおいて必要な情報の収集とその分析方法について多角的な講義を行う。デザインにおけるデータの種類と質の理解、さらにはその解析方法について習得するとともに、今後のデザインシステムに必要なシステム化の方法についての講義を行う。

[講義目的] 日本のインハウスのデザイナーはデザインの周辺の能力、企画能力・商品開発能力・市場把握能力が要求される。本論では、このデザインが担当する企画や開発に必要な能力を習得することを目的としている。

[講義内容] 第 1 回オリエンテーション、第 2 回デザイン解析の利用法、第 3 回デザインにおけるデータ、第 4 回データの構築法、第 5 回構造化の方法 1、第 6 回構造化の方法 2、第 7 回構造化の方法 3、第 8 回構造化の方法 4、第 9 回構造化の方法 5、第 10 回構造化の方法 6、第 11 回評価の方法 1、第 12 回評価の方法 2、第 13 回システム化の方法 1、第 14 回システム化の方法 2、第 15 回試験

[キーワード] 企画, 分析, デザイン

[履修条件] デザインシステム計画 I を履修していること

[教科書・参考書] 左脳デザインング, エクセルに学ぶ調査分析

授業科目名 : デザインシステム計画演習 II
 科目英訳名 : Design Systems Planning II (Lab)
 担当教官 : 渡邊 誠, 釜池 光夫, (長谷川 卓哉)
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T097, T098, T099
 開講時限等: 3 年後期金曜 3,4,5 限
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室), 工 2-アトリエ (2-601), 工 1-401 (デザイン実習室), 工 2-アトリエ (2-601), 工 2 号棟 101 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		専門選択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 演習

[講義概要] インダストリアル・デザインにおいて必要な先行デザインの提案を, ネットワーク・プロダクツ (N) とアドバンスド・トランスポーターション (A) からテーマを設定し行う。双方ともデザインの系統的側面をとらえた提案を行うとともに, その中で使われるものをデザインする。

[講義目的] (N) プロダクトデザインの中でも, システムとしての形相を持つ物を対象にする。ビジネスモデルとしてのシステムをお提案し, 新たな生活を提案するようなプロダクトを提案する。ホームネットワーク, ネットワークプロダクツのような家庭内のシステムから, ユビキタスネットワークのように公共性の高いプロダクトのシステムまで幅広い領域を対象にする。(A) トランスポーターションの領域で, 自動車という枠組みにとらわれることなく提案をする。アドバンスドトランスポーターションを単体として考えるシステムから, カーシェアリング, ITS など交通のシステムとしての側面をとらえる範囲までデザインの対象とする。但しシステムの提案と同時に必ず乗るものをデザインこと。

[講義内容] 第 1 回ガイダンス, 第 2 回テーマの選定・現状および問題点の把握, 第 3 回 ブレインストーミングによる問題点の整理, 第 4 回デザインコンセプトの作成, 第 5 回デザイン展開 1, 第 6 回デザイン展開 2, 第 7 回デザイン展開 3, 第 8 回アイデアの絞り込み, 第 9 回中間プレゼンテーション, 第 10 回レンダリング完成, 第 11 回モデル作成 1, 第 12 回モデル作成 2, 第 13 回モデル作成 3, 第 14 回プレゼンテーション準備, 第 15 回プレゼンテーション

[キーワード] アドバンスデザイン, ネットワークプロダクツ, トランスポーターション

[履修条件] 製品デザイン表示論演習 I,II, 基礎製品デザイン演習 I,II, 製品デザイン演習 I,II デザインシステム計画演習 I を履修していること

[教科書・参考書] なし

[備考] 受講者は (N) ネットワーク・プロダクツと (A) アドバンスド・トランスポーターションどちらかを受講すること。(N) は金曜日 4 コマの半分-5 コマ (A) は金曜日 3 コマ-4 コマの半分で開講する。

授業科目名 : デザイン心理学演習 II
 科目英訳名 : Design Psychology II (Lec & Lab)
 担当教官 : 日比野 治雄
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T09A, T09B
 開講時限等: 3 年後期火曜 3 限 / 3 年後期火曜 4 限前半
 講義室 : 工 2 号棟 101 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 演習

[講義概要] デザイン心理学演習 I で修得した基礎知識を踏まえた上で、さらにデザイン心理学について深い知識および能力を習得することを目的とする。そこで、本演習では、人間とデザインとの関わりに対する心理学的なアプローチの応用的側面について実践的に学ぶ。

[講義目的] デザイン心理学演習 I で修得した基礎知識を踏まえた上で、さらにデザイン心理学について深い知識を身につけることを目的とする。実際に心理学的な視点からデザインを捉えるような課題を体験的に行い、デザイン心理学の研究を身近なものとして捉え直すとともに、卒業研究の方向付けまでを目標としたい。主として色彩関係のトピックを取り上げ、デザインにおいて重要な配色の問題まで実習課題を通して扱って行きたい。

[講義内容] 以下のような内容について、演習形式で学ぶ機会を設ける：デザイン心理学とは（心理学的な考え方とはどのようなものか）；デザイン心理学の基礎と応用（デザインを心理学的視点から捉える）；形の知覚（形の知覚の応用）；色の知覚（色の知覚に関する諸問題）；カラーコーディネイトに関連する問題（検定試験に関連する色彩の問題について学ぶ予定） 実習課題も行いながら、学生自身が学んだ成果をプレゼンテーションの形で発表する場も設ける。・上記の講義計画は、都合により変更されることもある。

[キーワード] デザイン心理学，色彩，形，知覚

[履修条件] デザイン心理学演習 I および色彩科学を履修していること。また、毎回出席することが前提である（遅刻・欠席厳禁!!）。

[教科書・参考書] 詳細については第 1 回の講義の際に伝える。

[関連科目] 色彩科学，デザイン心理学演習 I

[備考] 受け入れ人数：40 人程度 成績評価方法：課題および発表

授業科目名 : 展示デザイン演習
 科目英訳名 : Display Design(Lec&Lab)
 担当教官 : 佐藤 公信, (鈴木 恵千代)
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T09C
 開講時限等: 3 年後期水曜 1 限後半 / 3 年後期水曜 2 限
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF4:デザイン A 建築				専門選択 (F30)		

[授業の方法] 演習

[講義概要] 具体的な空間を想定し、実際に即したプロセスをとりながらデザイン提案を行う。

[講義目的] 伝達・訴求機能を主目的として空間を演出するディスプレイ（展示）デザインの特性を認識し、計画上の構成要素について基本的な諸問題を考察する。また、課題を通し具体的なデザイン手法に関して造詣を深める。

[講義内容] ・空間デザインの実例とデザインプロセスについて・ゾーニング 平面プランの考え方・アイデアの展開・表現手法について・課題 1 商業施設の企画・デザイン・課題 2 コミュニケーションスペースにおける展示計画・プレゼンテーション及び講評

[キーワード] 展示, 商業施設

授業科目名 : 人間工学演習 II
 科目英訳名 : Experiments on Ergonomics II (Lec & Lab)
 担当教官 : 勝浦 哲夫, 岩永 光一, 下村 義弘
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T0AA, T0AB
 開講時限等: 4 年前期火曜 1 限後半 / 4 年前期火曜 2 限
 講義室 : 各研究室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 演習

[講義概要] 人間工学では、さまざまなデザイン対象に関連した総合的な人間特性の評価が求められる。本講義では、種々の生理心理機能の測定方法について、理論と測定の実際を学ぶと共に、それらの知識と技術を応用したデザイン評価実験を行う。

[講義目的] 人間の生理心理機能測定法、例えば発汗測定法、血流量測定法、心拍出量測定法、皮膚電位水準測定法、心拍変動測定法、脳波測定法などに関する理解と測定技術の修得を目指す。また、人間工学的な実験を遂行し、デザイン評価について考察し提案する能力の獲得を目指す。

[講義内容] 第1回 実験概要の説明 第2回 発汗測定法 第3回 血流量測定法 第4回 心拍出量測定法
 第5回 皮膚電位水準測定法 第6回 心拍変動測定法 第7回 脳波測定法 第8回 筋電図・
 筋音図測定法 第9回 関節角度・動作測定法 第10回 実験 第11回 実験 第12回 実験
 第13回 解析 第14回 解析 第15回 実験結果発表会

[キーワード]

[履修条件] 人間工学演習 I 履修者

[教科書・参考書] 「身体の機能と構造計測マニュアル」垣罎・勝浦・山崎訳、文光堂。「環境人間工学」佐藤方彦・勝浦哲夫著、朝倉書店。「マンマシン・インターフェイス」佐藤方彦編、朝倉書店。「心理生理学」J.L. アン
 ドレアッシ著、ナカニシア出版

[備考] 成績評価法：出席、態度、解析他

授業科目名 : 音響デザイン演習
 科目英訳名 : AcousticsDesign (Lec. and lab.)
 担当教官 : 佐藤 公信
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T0A8, T0A9
 開講時限等: 4 年前期水曜 3 限 / 4 年前期水曜 4 限前半
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		専門選択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 演習

[講義概要] 音をデザインの対象として扱う上で必要とされる知識や方法について講義し、具体的な課題を通して実際に音響デザインを試みる。

[講義目的] 音が持つコミュニケーション手段としての有効性を、様々な視点から考察し、音響デザインの役割と方法を考える。

[講義内容] 第1回 ガイダンス 第2回 技術と音響 音の成立ち、音の物理特性 第3回 聴覚と音響 聞こえる音・聞こえない音、他の感覚との相互作用 第4回 メディアとしての音の役割 (1) 歴史的考察 蓄音機からヴァーチャルリアリティまで 第5回 メディアとしての音の役割 (1) 歴史的考察 音の記号論 第6回 人間行動と音情報 信号音、マン・マシンインタフェース 第7回 アートの中の音 サウンドインスタレーション、音響彫刻、音楽と音響デザイン 第8回 音をデザインする (1) 音のデザイン 音を作り、加工する技術 第9回 音をデザインする (2) 音響デザイン 空間音響計画、空間演出 第10回 音をデザインする (3) 音環境デザイン 騒音、サウンドスケープ・デザイン、環境音楽 第11回 コンピュータミュージック M I D I インタフェースと電子楽器 第12回 音響デザインの実例 「場」をつくる音響デザイン 第13回 音を見つめる / サウンド・ウォーク 千葉大学キャンパス内の音を体験する レポート提出 第14回 レポート発表 ディスカッション 第15回 まとめ

[キーワード] サイン音, 音情報, デザイン

[備考] 録音機材を用意すること

授業科目名 : 学外実習
 科目英訳名 : Extracurricular Activity
 担当教官 : デ工 (意匠系) 各教官
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T09D
 開講時限等: 3,4 年通期集中
 講義室 : 未定 (工学部)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 本実習の目的は、大学での講義および実習をとおして身につけたデザイン技術に関する能力を、実社会において具体的にどのように応用するか、また、大学では学べないデザイン実務等に関する体験を身につけることを目的とする。

[講義内容] 本実習は授業等の休業期間中にを利用して、学外の企業等の組織において実務を体験する。期間、実習内容等は学外の組織と本学科と調整の上で決定されるため、定常的に本実習が行われるわけでは無い。希望者は事前に学年担当教官に申し出て、その指導・指示に従うこと。

[キーワード]

[履修条件] 履修にあたっては学年担任に申し出ること

[備考] 3・4 年次に履修

授業科目名 : メディアデザイン演習 I
 科目英訳名 : Communications Media Design I (Lec & Lab)
 担当教官 : 宮崎 紀郎, (大橋 透), (木村 博之)
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T09E, T09F
 開講時限等: 2 年後期水曜 3 限 / 2 年後期水曜 4 限前半
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

学科 コース	入学年度
TF1:工業意匠 A	1997 年 専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 演習および講義

[講義概要] ビジュアルコミュニケーションデザインに関する基礎的な題材として、1 カレンダー制作、2 インフォグラフィックス、3 エディトリアルデザインをとりあげ、課題制作を行う。

[講義目的] 基礎的な課題製作を通じ、伝えるべき情報内容とその表現形態のかかわりについて学ぶ。

[講義内容] 第 1 回 <課題 3> カレンダーの企画制作 各自カレンダーの用途、形式などのコンセプト建てをすることから、さまざまなレベルの情報と表現について実感する。第 2 回 いろいろなタイプのカレンダーを見る。課題制作: アイデアスケッチ 第 3 回 カレンダーの企画制作プロセス。課題制作: 原寸ラフスケッチ 第 4 回 カレンダーの傾向。課題制作: 色彩つき原寸スケッチ 第 5 回 作品発表 (プレゼンテーション) 講評。第 6 回 <課題 2> インフォメーショングラフィックス 課題の説明 第 7 回 テーマの確定。スケッチ。第 8 回 構成要素を整える。原寸スケッチ。全体像の把握。第 9 回 原寸色彩スケッチ。全体像の確認。第 10 回 課題完成、講評。第 11 回 <課題 3> エディトリアルデザイン「先生インタビュー」編集者、コピーライター、フォトグラファーなど、一人何役かをやってもらいます。先生の姿を的確にかつ興味深く紹介してください。第 12 回 テーマの確定。スケッチ。第 13 回 構成要素を整える。原寸スケッチ。全体像の把握。第 14 回 原寸色彩スケッチ。全体像の確認。第 15 回 課題完成、講評。

[キーワード]

[備考] 成績評価法: 課題提出

授業科目名 : CG 演習
 科目英訳名 : Computer Graphics (Lec & Lab)
 担当教官 : 玉垣 庸一
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T0A0, T0A1
 開講時限等: 2 年後期水曜 4 限後半 / 2 年後期水曜 5 限
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		専門選択 (F30)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 演習および講義

[講義概要] CG 理論で学んだ基礎的な知識を具体的なプログラミングに展開する。

[講義目的] コンピュータによる画像生成に関連した基礎的な課題製作を通じ、数理的手順による造形方法を習得する。

[講義内容] 第 1 回 CG 理論で学んだ内容との関係について説明 第 2 回 プログラミング言語の説明と演習 1
 第 3 回 プログラミング言語の説明と演習 2 第 4 回 プログラミング言語の説明と演習 3 第 5 回
 グラフィックスへの応用 1 第 6 回 グラフィックスへの応用 2 第 7 回 色の記述への応用 1-R G B
 第 8 回 色の記述への応用 2-H S V 第 9 回 簡単な 2 次元アニメーションの作り方 1 第 10 回
 簡単な 2 次元アニメーションの作り方 2 第 11 回 簡単な 3 次元アニメーションの作り方 1 第 12 回
 簡単な 3 次元アニメーションの作り方 2 第 13 回 課題説明 第 14 回 課題制作 第 15 回 課題講評

[キーワード]

[履修条件] CG 理論を履修済みであること

授業科目名 : デジタルデザイン論
 科目英訳名 : Theory of Digital Design (Lec)
 担当教官 : (大平 智弘)
 単位数 : 2.0 単位
 履修登録コード: T0A2
 開講時限等: 3 年前期金曜 5 限
 講義室 : 工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 講義

[講義概要] 情報のデジタル化が我々の生活に及ぼした影響、またデザインプロセスそのものに及ぼした影響について、数理造形、デジタルイメージといったキーワードを取り上げながら考察をおこなう。

[講義目的] 制作手順の客観的な記述の上に成り立つデジタルデザインが、定規・コンパスなどによる手作業とは本質的に異なるものであることを理解し、今後のデザインプロセスにその数理的な性格を積極的に活用していくことを目指す。

[講義内容] 第 1 回 オリエンテーション 授業の進め方 第 2 回 デジタルデザインとは 第 3 回 デジタルデザインの現状 1 第 4 回 デジタルデザインの現状 2 第 5 回 造形のプロセス 第 6 回 数理造形 1 形・モデル・構造、そして造形ルールの発見 第 7 回 数理造形 2 形状記述と生成手続きの記述 第 8 回 2 次元 CG と 3 次元 CG 第 9 回 デジタルイメージの認知、処理、生成 第 10 回 工業デザインにおけるデジタルイメージの展開 第 11 回 ビジュアルコミュニケーションデザインにおけるデジタルイメージの展開 第 12 回 デジタルデザインによる生産プロセス 1 第 13 回 「もの」のデザインから「こと」のデザインへ 第 14 回 ポスト CAD としてのコンピュータデザインクス 第 15 回 試験

[キーワード]

授業科目名 : メディアデザイン演習 II
 科目英訳名 : Communications Media Design II (Lec & Lab)
 担当教官 : 宮崎 紀郎, 小原 康裕, (塩谷 徹)
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T0A3, T0A4
 開講時限等: 3 年前期火曜 1 限後半 / 3 年前期火曜 2 限
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[授業の方法] 演習および講義

[講義概要] ビジュアルコミュニケーションデザインにおける各種媒体（映像メディア、紙メディアを含む）について、それぞれのコミュニケーションの考え方から実際の制作に至るプロセスを学び、課題制作を行なう。

[講義目的] ビジュアルコミュニケーションにおける各種媒体（映像メディア、紙メディアを含む）のデザインプロセスを学ぶこと。

[講義内容] 第 1 回 <課題 1> 広告コミュニケーション 個人課題テーマ: サムネール制作 グループ課題テーマ: 雑誌広告制作 TV 広告・新聞広告・雑誌広告・交通広告・チラシ広告・屋外広告などの媒体特性と効果的な表現について事例を紹介しながら講義。 第 2 回 個人課題演習 (1) と講評 第 3 回 個人課題演習 (2) と講評 第 4 回 グループ課題演習 第 5 回 グループ課題講評 第 6 回 <課題 2> ビジュアルキャンペーン キャンペーンのテーマは、社会的な問題（といて必ずしも大問題でなくてよい）とし、商品キャンペーン避ける。例えば、「新聞を読むことのすすめ」、「南棟における空き缶回収案」など、自分の関心が大きくこれは主張したいと思うことがらを選ぶ。 第 7 回 問題の状況の調査キャンペーンコンセプトづくり 第 8 回 媒体の決定問題を認識させる（訴求対象者に）ための構成表現コンセプトづくり 第 9 回 表現要素（コピー、イラストレーション、マーク、ロゴタイプなど）の制作、原寸色彩スケッチ 第 10 回 本制作 第 11 回 <課題 3> WEB サイトの制作 ・インターネット公開を前提とした WEB サイトの構築する。 ・<課題 1> <課題 2> で制作した広告、キャンペーンなどを WEB 上で展開する。・HTML の基本文法、インターネットのもつメディア特性に対する理解を深める。 インターネットについて（講義） 第 12 回 アイデアの展開 トップページのカンプの制作 第 13 回 ページ構成のアイデア展開 カンプの間講評 第 14 回 ページ構成を含めたプレゼンテーション 第 15 回 講評

[キーワード]

[備考] 成績評価法:課題提出

授業科目名 : メディアデザイン演習 III
 科目英訳名 : Communications Media Design III (Lec & Lab)
 担当教官 : (児山 啓一), (松原 正毅), (山田 茂)
 単位数 : 3.0 単位
 履修登録コード: T0A5, T0A6, T0A7
 開講時限等: 3 年後期木曜 3,4,5 限
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築						専門選択 (F30)
学科 コース	入学年度 1997 年					
T1:工業意匠 A	専門選択必修 (F20)					

[授業の方法] 演習および講義

[講義概要] 視覚デザインに関係するさまざまな分野で活躍している専門家による、それぞれの分野の特性、ならびに現状と展望の概説を行なう。

[講義目的] 視覚デザインに関係するさまざまなデザイン分野の最新情報に接し、現状の問題点や今後の展望の考察結果に基づいて、具体的なデザイン提案を行うこと。

[講義内容] 第 1 回 公共サインとは サインの基本要素、情報の種類、表現要素(サインエレメント)、公共のサインの目的とは。 第 2 回 街の公共サイン 公共建築、公園、市街におけるサイン計画の手法について。 第 3 回 空港の公共サイン 日本の空港と世界の空港の現状、多言語とピクトグラム 色彩の役割などについて。 第 4 回 駅の公共サイン 駅と車両の連携、J R・民鉄・地下鉄の相違、自動化(省力化)は誰のため? 第 5 回 フィールドスタディー。J R 千葉駅と新東京国際空港を見学して、各々の特性と共通性、視認度等について実体験する。 第 6 回 パッケージデザインの領域。グラフィック・デザイン、インダストリアル・デザイン。演習:課題出題、スケッチ。 第 7 回 パッケージに求められる機能の変遷。販売促進、保護、保管、生産、社会性、環境適性。演習:課題スケッチ。 第 8 回 人間工学とパッケージ・デザイン。道具としてのデザイン。演習:課題ロゴタイプのスケッチ。 第 9 回 商品計画とパッケージ・デザイン。商品計画、宣伝、販売、物流。演習:課題シンボルマーク等スケッチ。 第 10 回 パッケージ・デザイン制作のシステム。スケッチ、ロゴタイプ、シンボルマーク、パターン、レイアウト、プレゼンテーション。演習:課題まとめのスケッチ。 第 11 回 放送局における C G 利用と制作 C G 概論と放送局の C G 第 12 回 ニュース・選挙・スポーツ・天気は文字情報でいっぱい デザイナーのふるさとの世界 第 13 回 オールデジタル・カメラレス映像について 第 14 回 ヴァーチャルセットとリアルタイム 3 D C G C G キャスター・C G タレントの誕生はいつ? 第 15 回 まとめ

[キーワード]

[備考] 成績評価法:課題提出

授業科目名 : 機械工作実習 B
 科目英訳名 : Practical training in machining B
 担当教官 : 渡部 武弘
 単位数 : 1.0 単位
 履修登録コード: T179, T17A
 開講時限等: 4 年前期金曜 4 限 / 4 年前期金曜 5 限前半
 講義室 : 工電子機械工学科機械工場 (13 号棟 102)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

学科 コース	入学年度			
	1997 年	1996 年	1995 年	1994 年
T8:画像 A 実験実習 (F28)	実験実習 (F28)	実験実習 (F28)	実験実習 (F28)	選択必修専門 I 類 (F26)
TD:画像 B 実験実習 (F28)	実験実習 (F28)	実験実習 (F28)	選択必修専門 I 類 (F26)	選択必修専門 I 類 (F26)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 物作りの基本となる生産技術や加工技術を実際に体験し、種々の工作法を修得すると共に、物を加工する工程を把握し、生産設計や生産計画を行えるエンジニアセンスを育成する。更に、電子工作における基本的考え方を習得すると共に、回路設計を行い、その回路を実際に作製する。

[講義内容] 機械部品には丸物、平面上の物、複雑形状の物等がある。旋盤を用いた丸物の加工、フライス盤による平面加工と平面の精度を更に向上させるための研削仕上げ、複雑形状の加工が可能な放電加工等を体験する。また、機械部品を接合させるための電気溶接とガス溶接も体験する。これらの加工は、NC 装置による自動化の方向にある。そのため、NC プログラミングについても勉強する。電子工作も、貴重な体験になるような環境を整えている。

[キーワード]

[履修条件] 人身事故などを予防し安全に作業するために、作業着および靴を着用すること。また、作業中は注意力を集中し、慎重に行動すること。

[備考] 電子機械工学実習と同じ内容で行なう。

授業科目名 : 卒業研究 (意匠・3 年)
 科目英訳名 : Graduation Study
 担当教官 : デ工 (意匠系) 各教官
 単位数 : 6.0 単位
 履修登録コード: TOAE
 開講時限等: 3 年後期月曜 4,5 限
 講義室 : 各研究室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 学部の各学年において習得したデザインに関する知識、技能を総合する能力を身につけることを目的とする。同時にそれらの能力が充分社会的にも応用でき、かつ、通用する能力かを検討することも卒業研究の目的である。

[講義内容] 3 年次後期において、学生は意匠系 9 教育研究分野の各研究室に配属される。学生は配属された研究室の専門性を基に卒業研究課題を個別に設定する。設定した課題について、研究室の指導教官からゼミ等をとうして随時研究指導を受けながら進める。研究成果は論文、論文・制作、制作の三つの形式の内一つを選べる。

[キーワード]

[履修条件] 卒業研究は、各教育研究分野に配属を許可されることが条件である。

授業科目名 : デザイン工学総合プロジェクト
 科目英訳名 : Collaborative Research & Design Projects
 担当教官 : デ工 (意匠系) 各教官
 単位数 : 6.0 単位
 履修登録コード: T0AC
 開講時限等: 3 年後期月曜 4,5 限
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)		専門必修 (F10)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] 講義、演習、実験、実習、実技

[講義概要] 多くのデザイン領域にかかわるテーマの中から 1 つを選定し、教官チームの指導のもと、グループによる調査・デザインを行う。

[講義目的] それぞれの基盤となる専門性を追求するとともに、異なる専門領域とのコラボレーションによって、より複雑で幅広い研究やデザインに生かしていく方法を習得する。第 7 および第 8 セメスターまで一貫して行い、卒業研究と同等の卒業要件を形成。

[講義内容] 本演習はその時点での社会的問題に係る課題を、デザインの問題として設定する。1~5: 課題に関する周辺分野の既往研究、状況調査と分析、6~10: 課題解決のためのコンセプトデザイン作成作業、11~15: コンセプトデザインをプロトタイプデザインへ変換する作業とプレゼンテーションを行う。本演習は第 6、7、8 セメスター一貫して進める。そのため、各セメスターでは以上の作業をくり返しながより質の高い解決案に進める。

[キーワード]

[履修条件] 課せられる作業内容は高度である。また、チーム作業が主となるため、途中で受講を中止したり、断わりなく欠席することは原則的に許されない。履修登録にあたっては十分考慮すること。

授業科目名 : 卒業研究 (意匠・4 年)
 科目英訳名 : Graduation Study
 担当教官 : デ工 (意匠系) 各教官
 単位数 : 6.0 単位
 開講時限等: 4 年前期月曜 2,3,4 限 / 4 年後期月曜 3,4,5 限
 履修登録コード: T0AF
 講義室 : 各研究室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザイン A デザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)				TF1:工業意匠 A 1997 年 専門必修 (F10)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)		
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)		

[授業の方法] (記述なし)

[講義概要] (記述なし)

[講義目的] 学部各学年において習得したデザインに関する知識、技能を総合する能力を身につけることを目的とする。同時にそれらの能力が充分社会的にも応用でき、かつ、通用する能力かを検討することも卒業研究の目的である。

[講義内容] 3 年次後期において、学生は意匠系 9 教育研究分野の各研究室に配属される。学生は配属された研究室の専門性を基に卒業研究課題を個別に設定する。設定した課題について、研究室の指導教官からゼミ等として随時研究指導を受けながら進める。研究成果は論文、論文・制作、制作の三つの形式の内一つを選べる。

[キーワード]

[履修条件] 卒業研究は、各教育研究分野に配属を許可されることが条件である。

授業科目名 : デザイン工学総合プロジェクト
 科目英訳名 : Collaborative Research & Design Projects
 担当教官 : デ工 (意匠系) 各教官
 単位数 : 6.0 単位
 開講時限等: 4 年前期月曜 2,3,4 限 / 4 年後期月曜 3,4,5 限
 履修登録コード: T0AD
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)		専門必修 (F10)	
TF2:デザイン A インダストリアルデザイン インダストリアルデザ	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF3:デザイン A メディアデザイン メディアデザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] 講義、演習、実験、実習、実技

[講義概要] 多くのデザイン領域にかかわるテーマの中から 1 つを選定し、教官チームの指導のもと、グループによる調査・デザインを行う。

[講義目的] それぞれの基盤となる専門性を追求するとともに、異なる専門領域とのコラボレーションによって、より複雑で幅広い研究やデザインに生かしていく方法を習得する。第 7 および第 8 セメスターまで一貫して行い、卒業研究と同等の卒業要件を形成。

[講義内容] 本演習はその時点での社会的問題に関係する課題を、デザインの問題として設定する。1~5: 課題に関する周辺分野の既往研究、状況調査と分析、6~10: 課題解決のためのコンセプトデザイン作成作業、11~15: コンセプトデザインをプロトタイプデザインへ変換する作業とプレゼンテーションを行う。本演習は第 6、7、8 セメスター一貫して進める。そのため、各セメスターでは以上の作業をくり返しながより質の高い解決案に進める。

[キーワード]

[履修条件] 課せられる作業内容は高度である。また、チーム作業が主となるため、途中で受講を中止したり、断わりなく欠席することは原則的に許されない。履修登録にあたっては十分考慮すること。